

令和2年度事業成果報告資料 (コンピテンシー事業)

学校評価の充実等を目的とした資格枠組の共有化・職業分野別展開と
その有用性の検証

一般社団法人専門職高等教育質保証機構

2021年3月

QAPHE
Institution for Accreditation and
Quality Assurance of
Professional Higher Education

令和元年までの成果

- 資格枠組のレベル定義（レベルディスクリプター、概要）：日英版作成
- 学修成果指標の検討：美容師（美容分野）、ゲームクリエイター（ゲーム・CG分野）、認定動物看護師（動物分野）、土木施工管理（土木・建築分野）
- 資格枠組のレベル定義の各レベルの目安（令和2年度に一部修正）

レベル	レベルの目安
8	専修学校専門課程（2）卒業後15～20年経過（35～40歳）、博士
7	専修学校専門課程（2）卒業後10～15年経過（30～35歳）、修士、修士〔専門職〕
6	専修学校専門課程（2）卒業後5～10年経過（25～30歳）、高度専門士、学士、学士〔専門職〕
5	専修学校専門課程（2）卒業（20歳）、専門士、短期大学士、短期大学士〔専門職〕、準学士
4	専修学校専門課程（1）卒業（19歳）
3	高等学校卒業（18歳）
2	中学校卒業（15歳）
1	小学校卒業（12歳）

資格枠組のレベル定義（概要）

レベル	人 材 特 性		
	知 識	技 能* ¹	責任と自律性* ²
8	専門的実務／学問分野において最先端のフロンティア。新しい専門的実務や知見につながる分野横断的な視点・知識・理解	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的スキル	専門的実務や学問の最前線で、新しいアイデア・プロセス開発に対する権威、自律性、学術的・専門的な誠実性および持続的な関与
7	高度に専門化された知識。その内いくつかは、仕事／学習分野における知識の最前線。異なる分野の知識・理解	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合。新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決スキル	複雑で予測不可能な課題に対する革新的な取組が求められる仕事や学習の管理。専門的知識・実践と管理への貢献・評価
6	理論や原理の批判的思考を含む、仕事／学習分野に関する高度な知識・理解	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度なスキル	技術的・専門的活動を管理し、予測不可能な仕事や学習の場面で意思決定を行う責任。個人や団体の専門的開発を管理する責任
5	仕事／学習分野における総合的、専門的、事実に基づく、理論的知識と、その知識の批判的認識	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的スキル	予期せぬ変化がある仕事／学習活動の主体的管理と監督。自己と他者の業績の点検・開発
4	仕事／学習分野における幅広い文脈の中で事実と理論の知識	仕事／学習分野における特定の課題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践スキル	通常は予測可能であるが変化する可能性のある仕事や学習の文脈の中での自己管理。他者の日常業務を監督し、仕事／学習活動の評価・改善

*¹ 汎用的な（認知的）スキルおよび職務上の（実践的）スキルを記述

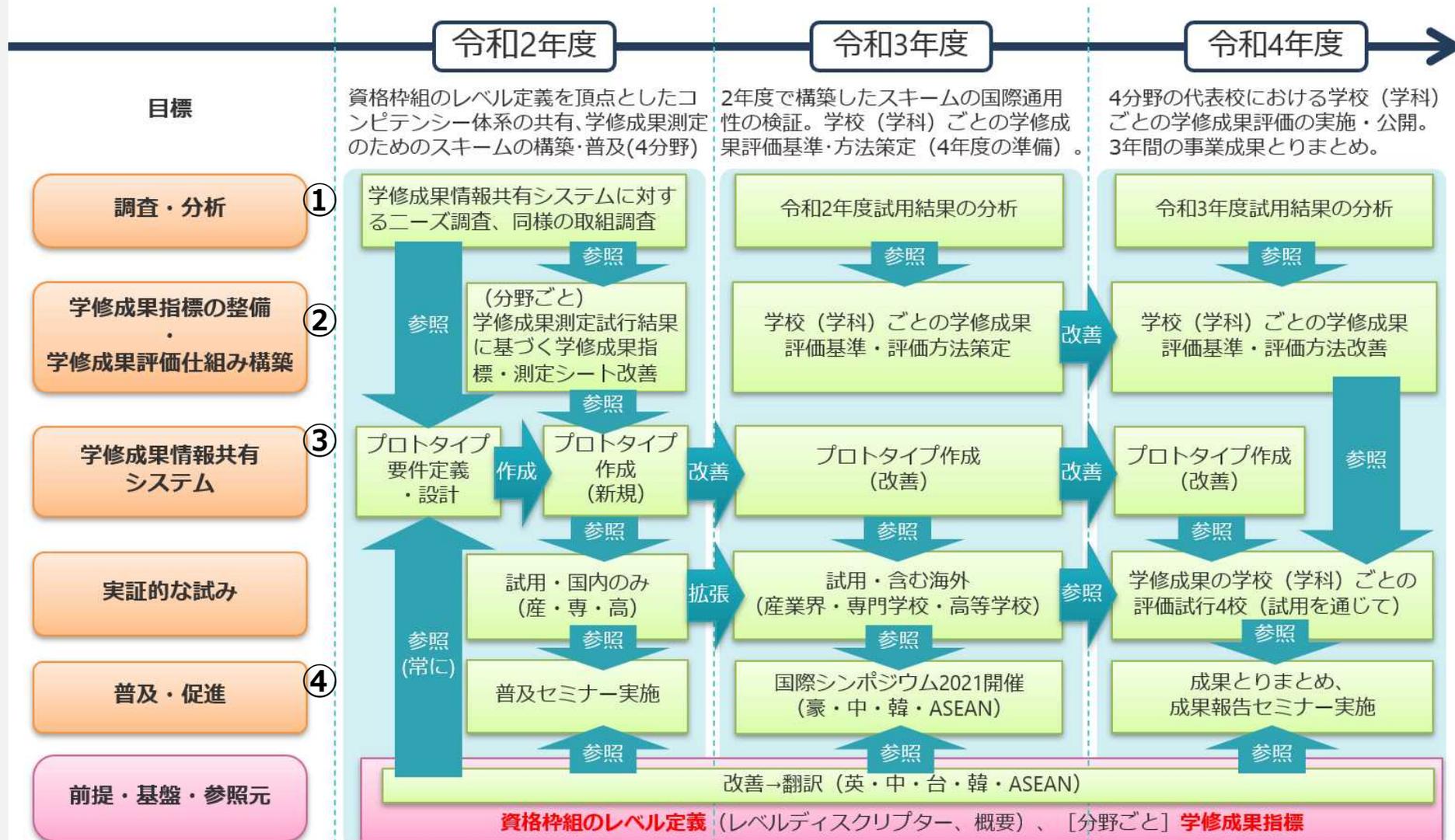
*² 知識とスキルを自律的に、責任を持って適用する能力を記述

資格枠組のレベル定義（レベルディスクリプター）の学修者プロフィール

レベル	学修者プロフィール
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学問分野や専門的実務分野の最前線にある最先端の知見について、批判的理解を示す。 ・ 新しく独創的な知見／実務につながる高度な研究を、主体的に実施・管理・統率する。 ・ 論文、特許、製品、新規の高度な専門的実務、先進技術、創造的モデル、芸術作品や音楽などの形で研究成果を産み出す。 ・ 専門分野の観点、主張、アイデアを、知識と自信をもって提示し、正しいと証明する能力を発揮する。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学修／研究／専門的実務を進めることにより、高度な理論的知識、批判的思考、創造能力や革新能力に関する理解を基礎として、学問／実務の特定分野における高度な知識を習得する。また、課題に対して、新しい解決策を産み出す。 ・ 世界でも、知識と能力を生かして、自信をもって行動する。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門分野での研究開発、創造性や革新が欠かせない準専門職の仕事に求められる、広範囲で体系的な知識と能力を理解する。 ・ 専門職業人としての姿勢・心構えと柔軟な対応力を持ち、倫理観ある職場文化や持続可能性に向けて取り組み、日本の国家目標に沿いながら国際社会の一員としての認識をもつ。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相当量の理論的・専門的知識を持ち、職場で複雑な状況に対処することができ、組織や職業で求められることを理解し、それに従うことができる。 ・ 倫理的にも、地域社会や世界で働いたり生活したりする場合にも、持続可能な方法を用いる能力をもつ。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般理論・原理について幅広い知識を獲得し、特定分野の学習／訓練の能力を発揮する。それにより、技術職・専門職・経営職の分野のキャリアにつながる専門的な仕事を行うことができる。 ・ 進学への関心を示す。 ・ 倫理観ある適切な行動を取ろうと努力し、世界の中の日本という視点で、日本の目標への理解を示す。

コンピテンシー事業の全体計画

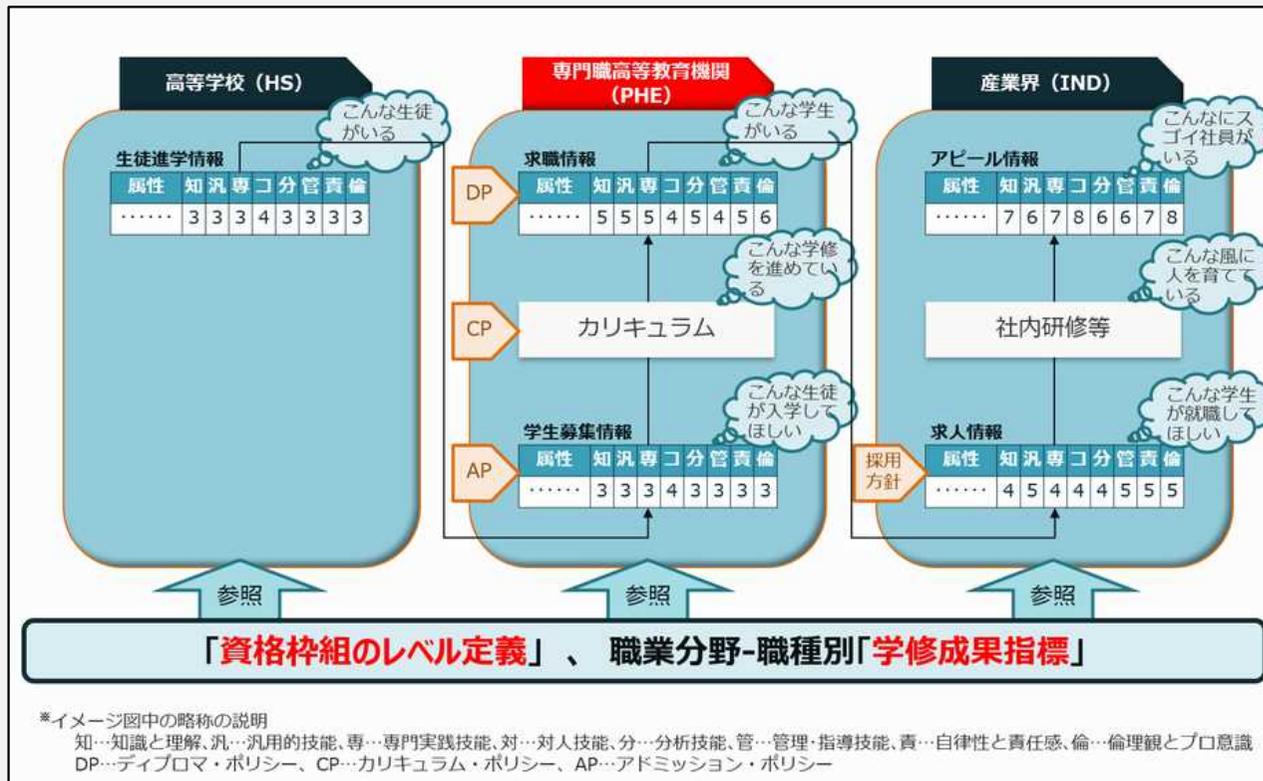
事業実施の年次計画



令和2年度事業概要と成果

- **学修成果情報共有システムに関するニーズ調査（産業界および専門学校）（No. 7～13）**
- **資格枠組（レベルディスクリプター）、学修成果指標の見直し（No. 14）**
- **資格枠組（レベルディスクリプター、概要）の中国語版（簡体字、繁体字）、韓国語版、ベトナム語版の作成**
- **ガイドラインの作成（No. 14）**
- **学修成果情報共有システムのプロトタイプ（ポートフォリオ）の作成と試用（No. 15）**
- **普及セミナーの実施：2月22日に「成果報告会・セミナー」をオンライン開催（No. 16）**

学修成果情報共有システム



このシステムは、

- よい人材を獲得したい産業界、
- 産業界が必要とする人材を育成しようとする専門職高等教育機関、
- よい教育機関に人材を送り出したい高等学校

三者が、「資格枠組のレベル定義（レベルディスクリプター）」にしたがった共通の尺度で学修成果を測定し、その結果を共有することによって、互いにメリットをもたらすことを目指している。

学修成果情報共有システムに関するニーズ調査 (1)

● 目的

多くの主体が活用できる情報システム構築の参考とする。

システムの開発・運用の仕様決定の参考とする。

学修成果指標の検証(産業界ニーズと専門学校の卒業レベルとの一致状況)

● 対象：4分野の産業界および専門学校

	美容分野	ゲーム・CG分野	動物分野	土木・建築分野	計
企業	24	145	9	15	193
専門学校	13	39	7	26	85
計	37	184	16	41	278

● 方法

郵送によるアンケート依頼

回答用紙に記入、またはExcel入力後メール送信

● 回答数

	美容分野	ゲーム・CG分野	動物分野	土木・建築分野	計
企業	6	8	7	6	27
専門学校	4	6	5	8	23
計	10	14	12	14	50

● アンケート項目

・ 人材特性

採用時、何をどれくらい重視？（産業界）

卒業時の育成目標は何をどれくらい重視？（専門学校）

・ エビデンス

学修成果のエビデンスとして何を求めるか（産業界）

学修成果のエビデンスとして何を提供するか（専門学校）

・ 運用面

セキュリティ（プライバシー保護・技術の観点から）

・ 学修成果情報共有システムについて

期待すること（産業界、専門学校）

・ 資格枠組のレベル定義、学修成果指標

これらに対する印象、評価、役立ち

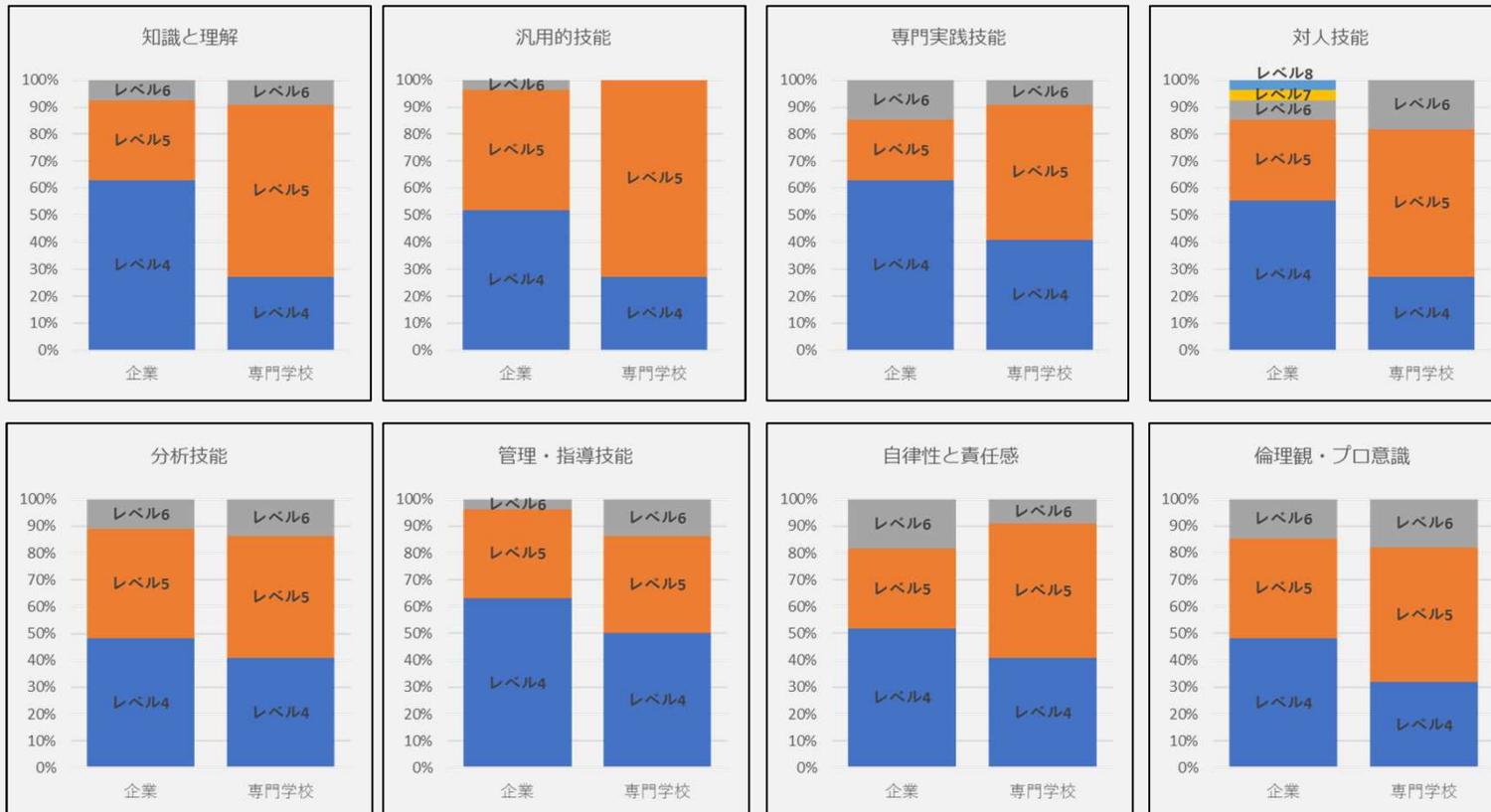
項目やレベルの妥当性

その他ご意見

学修成果情報共有システムに関するニーズ調査の回答 (1)

人材特性について

産業界ニーズと専門学校の卒業レベルとの一致状況を人材特性一つひとつについて検証する



産業界はレベル4、専門学校はレベル5が多い

学修成果情報共有システムに関するニーズ調査の回答 (2)

エビデンスについて

産業界が求めるエビデンスと専門学校が提供できるエビデンスを比較する その他として挙げられていたものは以下の通り

知識と理解	企業	専門学校
カリキュラム	15	19
教員のコメント	9	8
研究レポート	6	1
受賞・表彰	5	6
成績表	20	14
資格・免許	16	16
作品	10	10
汎用的技能	企業	専門学校
カリキュラム	13	17
教員のコメント	8	8
研究レポート	11	2
受賞・表彰	4	5
成績表	17	15
資格・免許	17	11
作品	9	11
特技(ITや語学など)	7	3
専門実践技能	企業	専門学校
カリキュラム	11	17
教員のコメント	8	10
実習レポート	9	6
受賞・表彰	5	9
成績表	18	13
資格・免許	12	12
作品	11	12
インターンシップ記録	9	9

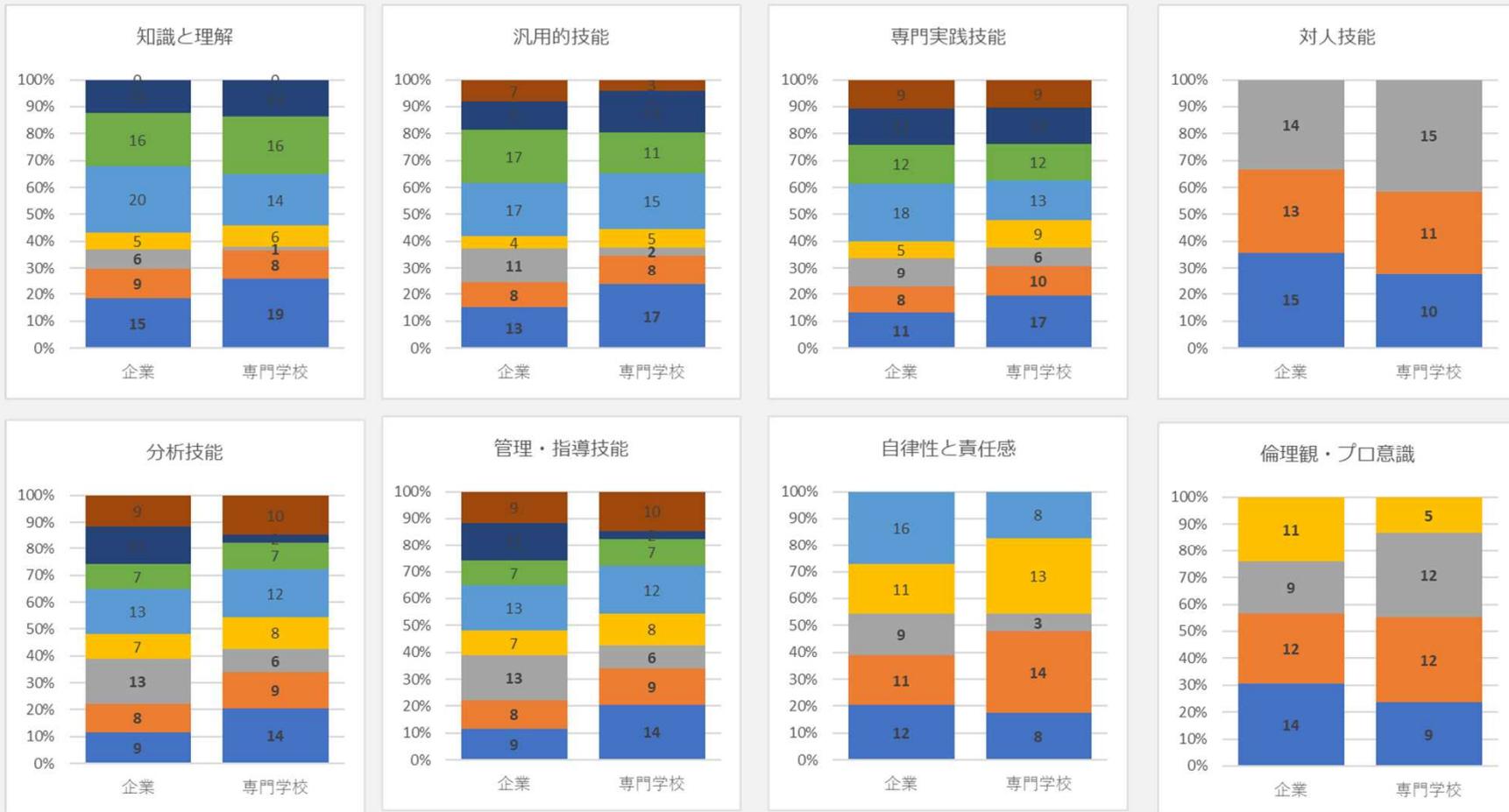
対人技能	企業	専門学校
事例	15	10
教員のコメント	13	11
インターンシップ記録	14	15
分析技能	企業	専門学校
カリキュラム	9	14
教員のコメント	8	9
実習レポート	13	6
事例	7	8
成績表	13	12
資格・免許	7	7
研究レポート	11	2
インターンシップ記録	9	10
管理・指導技能	企業	専門学校
事例	12	10
教員のコメント	13	13
インターンシップ記録	10	12
自律性と責任感	企業	専門学校
事例	12	8
教員のコメント	11	14
企画書	9	3
インターンシップ記録	11	13
課外活動	16	8
倫理観・プロ意識	企業	専門学校
事例	14	9
教員のコメント	12	12
インターンシップ記録	9	12
クラス活動	11	5

知識と理解	企業	-
	専門学校	課題（問題発見課題解決型）・プロジェクトの成果物
汎用的技能	企業	小論文（採用検討時の課題としています）
	専門学校	課題（問題発見課題解決型）・プロジェクトなどの取り組みや成果物
専門実践技能	企業	実習
	専門学校	防災・避難訓練 授業や学校生活などの取り組みや成果物
対人技能	企業	性格診断テスト等をもとに自己を客観視した記述 面接で判断しています 面接 実習
	専門学校	授業や学校生活（部活、委員会含む）および学外活動などの取り組み
分析技能	企業	小論文（採用検討時の課題としています）
	専門学校	授業や学校生活などの取り組みや成果物
管理・指導技能	企業	面接で判断しています 自己管理、遅刻や欠席等
	専門学校	授業や学校生活などの取り組みや成果物
自律性と責任感	企業	小論文 面接で判断しています 面接
	専門学校	クラス活動 授業や学校生活などの取り組みや成果物
倫理観・プロ意識	企業	作文、論文等、本人が書いたもの 小論文・履歴書に記載するような職業意識 面接で判断しています 課外活動 面接
	専門学校	ビュートイショー 授業や学校生活などの取り組みや成果物 現場見学レポート

学修成果情報共有システムに関するニーズ調査の回答 (3)

エビデンスについて (グラフ)

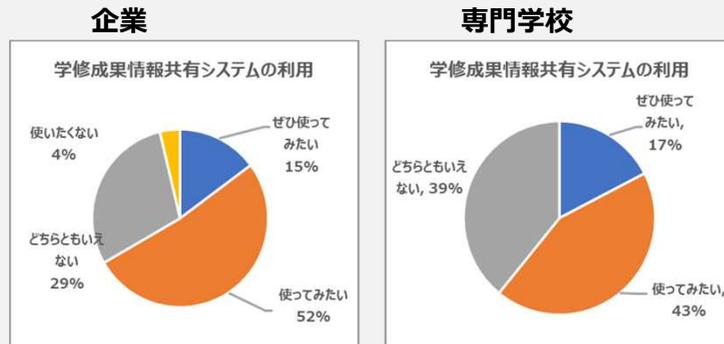
産業界が求めるエビデンスと専門学校が提供できるエビデンスは大きくは異なるらない



学修成果情報共有システムに関するニーズ調査の回答 (4)

学修成果情報共有システムについて

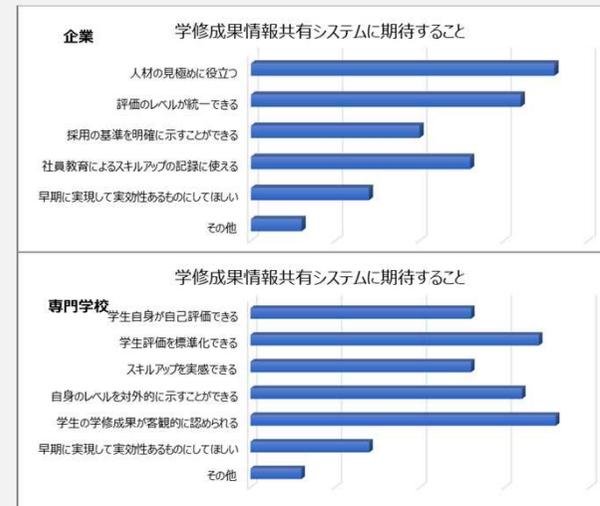
- 企業には専門学校生の採用時に利用したいか、専門学校には進路指導や学生の学修成果の記録などに利用したいかを調査



学習成果情報共有システムのセキュリティ

- ✓ セキュリティは万全の対策をお願いしたい
- ✓ 不正アクセスにより情報改ざん等があってはならないので高いセキュリティを希望する
- ✓ 成績表(成績証明書)や履歴書などの情報は共有システム上には載せにくいのではないかと
- ✓ 不正アクセス(アクセス権を含む)情報漏洩に関する制御が必要
- ✓ 学習成果のエビデンスに「成績表」を提示したほうが良いかと考えたが、プライバシーの観点に不安がある
- ✓ これを企業に提出する場合には改ざんが容易にできないような対策が必要と考える。
- ✓ 教育機関からこのデータが持ち出される際には学校、本人、企業以外は閲覧できない資料とするべきである
- ✓ 個人情報保護の観点から、管理を徹底してほしい
- ✓ 個人の評価が漏出しないシステムが必要

学習成果情報共有システムに期待すること



◆その他ご意見

企業

- ✓ 教育機関での達成度としての意味合いであれば、成績評価基準として取り上げやすいようカリキュラムを整え、指導方法も統一を図る必要がある
- ✓ 専門学校でどんな勉強をしたのかわかりやすくなる
- ✓ 客観的に評価できるシステムであってほしい

専門学校

- ✓ 学校と理美容サロンでシステムを共有することで、今成すべきことが明確となり、休学・退学や早期離職の抑止効果が期待できる
- ✓ 専門学校と美容業界との間で『学修成果指標』において、連携が深まることに期待する
- ✓ ゲーム業界が求める人材の専門性の最低ラインの知識・技術の統一見解をまとめ、その内容をまとめた教科書に沿って学生を指導する時代が来ることを願う

学修成果情報共有システムに関するニーズ調査の回答 (5)

資格枠組のレベル定義、学修成果指標、ガイドラインについて、印象や評価、役立ちそうか、項目やレベルの妥当性、ご意見など

◆企業

好意的意見

- ✓ ITに関する知識は今後必須であるため、各学校において教育内容を充実させていたきたい
- ✓ 勉強不足でこのようなものがある事をこのアンケートで初めて知った。今後も継続して勉強していきたい
- ✓ 職域、職能のマッチング性が高まり、人材の長期雇用に続いていくと考えられるので大いに期待する
- ✓ 項目が細かく定義されており、採用時の判断材料としてとても役立ちそうだ
- ✓ レベルの枠組ができ、客観的にも評価できることは良いと思う

課題・懸念事項

- ✓ 統一した学修成果指標を効率的に評価するためには、専門学校における教員の資質向上と、統一した指導要領の整備が必要ではないか
- ✓ 採用する企業においては個々の学生の性格傾向や人間性を重視する場合もある。対人技能、自律性、責任感、職業倫理など性格傾向の影響を強く受ける教育機関での学習の中で看護対象だけでなく学生自身を客観視するような指導を教員が意識して行うことが必要と考える
- ✓ レベル4の段階でスキルがかなり高いように思われるため、指標として適切かどうか、やや疑問が残る。もう少し低いレベルの指標も追加されると良い
- ✓ 評価をどのように活用し、社会的評価にまで持っていけるかが課題だ
- ✓ レベル定義を4分野統一で設定、評価することには違和感がある
- ✓ 学生迄の横の人間関係から縦の関係(特に年長者)が主になり、対応出来ない事が多い
- ✓ インターシップでは無く対価のあるアルバイトを積極的に美容室で行う事で学生時代からOJTの能力開発が可能と考えられる
- ✓ 一方で事業者側がアルバイト=入社という制度と勘違いしない様、枠組みをしっかりと行わないと生徒に無用なプレッシャーが係ると思われる
- ✓ 評価基準を参加校で統一させるのが難しいように感じる。具体性も必要かと思う
- ✓ 学修成果指標のレベル6の内容については、レベル5に分類しても良いのではないかとと思われるものが散見された
- ✓ テキストによる情報量がかなり多いので、理解に時間がかかるのが課題だと思う。情報を共有し易くする為の工夫は今後必要である

◆専門学校

好意的意見

- ✓ 将来的には有効なシステムであると思う
- ✓ 弊社がお預かりしている求人企業にも取り組みを伝えたい
- ✓ 今まで、「人間力やコミ力」といった言葉で表現されていた、学校における生活指導となる「対人技能」「分析技能」が明確に数値化されていて感心した
- ✓ さらに、細部まで具体化していくことで、より役立つシステムに進化できると思われる。スタートアップとしては十分な内容で、ぜひ活用させていただきたい
- ✓ 概ね妥当であると思う
- ✓ 国際通用性のある『資格枠組のレベル定義』、『学修成果指標』の策定により、学生自身の人材レベルが明確となり、学校内部の質を高めるうえでも非常に重要であると思う
- ✓ 詳細に構成されており非常に有効なツールと受け止めてい
- ✓ 細かくレベル分けされていて評価指標には役立ちそうだ

課題・懸念事項

- ✓ 各学校の特色が無くならないか疑問を感じる
- ✓ 一つの項目で複数の内容に対する評価内容があるため、評価が複数に分かれてしまうことがある。(数値の判断に迷うことが多い)。エビデンスとしての適性が難しい
- ✓ システムの構築には期待するが、全体的にレベルが高く本校がついていけるのかが懸念である
- ✓ 学修成果を判断する共通のツールがないので判断しにくい。レベル定義を読むと「なるほど」と思えるものばかりだが、そのためにどのように育てていくかが難しいように思う
- ✓ 資料3：指標として、資格試験取得の可否は明確な判断ができるが、その他の指標については、項目・内容については各校の判断など曖昧となりやすく、更なる詳細等の検討が必要と考える
- ✓ 成果の指標が抽象的で幅が広いためゲーム分野のほとんどの学校が5にしか該当しないように思える
- ✓ これらを読み解いて、誰が評価しても同じになることは困難と思われる。しかし、そこに近づけていかないと評価の客観性が失われる。レベルが上がるほど、具体的な指標が示せるかがポイントとなる
- ✓ 評価を行うにあたり、評価者による解釈のブレをどこまで抑えられるかが気になる。具体的な例と一緒に表現されているとわかりやすいと思われる

学修成果指標の整備

● 資格枠組(レベルディスクリプター)、学修成果指標の見直し

- 今まで、高等教育機関卒業レベルをレベル4として資格枠組を作成してきたが、国際的な基準に当てはめてレベル5が妥当
- それに伴って、資格枠組、学修成果指標の調整を行った

● 学修成果指標を実用化の段階へ進めるために

● ガイドラインの必要性

- ✓ 前年度事業の「測定シート」の「補足的説明」欄に相当するもの
- ✓ 学修成果指標を実際のレベル判断に適用しやすくするために、具体性をもたせたもの
- ✓ 学修成果情報共有システムにも組み込むことによって、参照可能性を高め、個人スキルの測定（主観／客観）に役立たせる

● ガイドラインの作成

- ✓ 前年度事業の「測定シート」の「補足的説明」欄に準拠する形でガイドラインを作成した。
- ✓ 今年度だけでは完成できないので、来年度事業に継続。

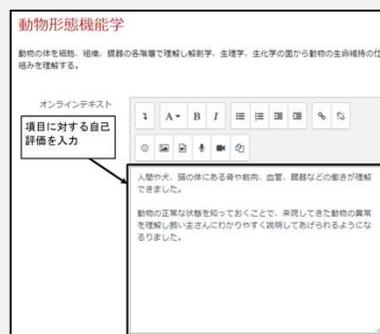
学修成果情報共有システム

● 学修成果情報共有システム（学生と教員）のプロトタイプ：ポートフォリオ

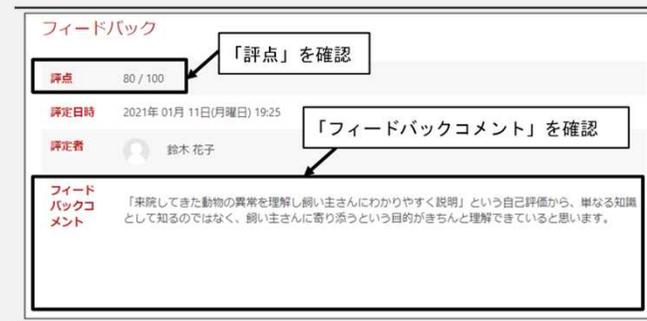
プロトタイプ作成済み



学生が自己評価を入力する画面



学生が教員からのフィードバックを見る画面



● 学修成果情報共有システムの試用

- ✓ 試用進行中
- ✓ 4分野のうち、動物分野の専門学校に試用を依頼

このシステムでの学生の自己評価は、点数をつけるのではなく、自分が何を学んで何を得たかなど、具体的に文章やその他エビデンスを添えて登録する。

教員も、学生の提出した自己評価を見て、点数とその評価を文章でフィードバックする。

このように学生と教員の負担が大きいため、今回の試用は、動物分野の2校の専門学校で、1・2年生の学生各5名とその担当教員に試用をお願いした。

コロナ禍の影響で休校ということもあり、すべての試用データがそろってはいないが、このシステムの試用が大変だったとの学生、教員の意見が届いている。

しかし、学生の自己評価や、教員のフィードバックをみると、真剣に取り組んでいた様子が十分に伝わる内容であった。

専門学校からも、学生が自身の履修の振り返りをする上でも大変有意義なことであった、また、項目（補足説明）を読み込む力、文章を記入する力も十分に必要で、その能力を備えなければならない意味でも有意義であった、との感想をいただいた。

また、実施方法についても、一度にすべての項目を自己評価することは、時間的にも無理なので、一項目ずつ教科の中で行うことでないと負担が大きい、との意見もいただいた。

普及・促進活動

● 資格枠組、学修成果指標の普及

- 「資格枠組のレベル定義」を頂点としたコンピテンシー体系を、産業界、専門職高等教育機関、高等学校等と共有し、共通の指標で学修成果を測定する
- 国際通用性のある「資格枠組のレベル定義」で、人材の移動可能性を促進する

● セミナー開催

東京、大阪でセミナー開催予定だったが、コロナ禍の影響で会場を設定しての開催は難しいため断念

● 方法

オンライン開催

● 目的

コンピテンシー事業、ポートレート事業、FD・SD事業の認知と成果普及

● 時期・方法等

令和3年2月22日(月) 13:30~17:00
オンラインセミナー

● 内容

プログラム参照

● 参加者

約60名

令和2年度文部科学省委託事業 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進

成果報告会・セミナー

令和3年 **2.22**(月)13:30~17:00 **オンライン** 参加費:無料

[敬称略]

プログラム

13:30~13:35	開 会 (オンライン操作説明)	事務局
13:35~14:35	学修成果を主題とする質保証:リカレント教育が最重要テーマ 一般社団法人専門職高等教育質保証機構 代表理事	川口 昭彦
14:35~15:10	コンピテンシー事業 成果報告 ポートレート事業 成果報告 ポートレートシステム仕様解説 FD/SD 事業 成果報告	事務局
15:10~15:20	休 憩	
15:20~16:20	東京規約とNIC、資格枠組の国際的動向 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 准教授	野田 文香
16:20~16:35	質疑応答	
16:35~16:55	講 評 文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課専修学校教育振興室	河村 和彦
16:55~17:00	事務局からの連絡	事務局



一般社団法人 専門職高等教育質保証機構

<http://qaphe.com/>

当機構は文部科学大臣の認証を受けた専門職大学院の第三者評価機関(ビュービジネス分野)です

令和2年度事業成果報告資料 (ポートレート事業)

職業実践専門課程版ポートレートの構築

一般社団法人専門職高等教育質保証機構

2021年3月

QAPHE
Institution for Accreditation and
Quality Assurance of
Professional Higher Education

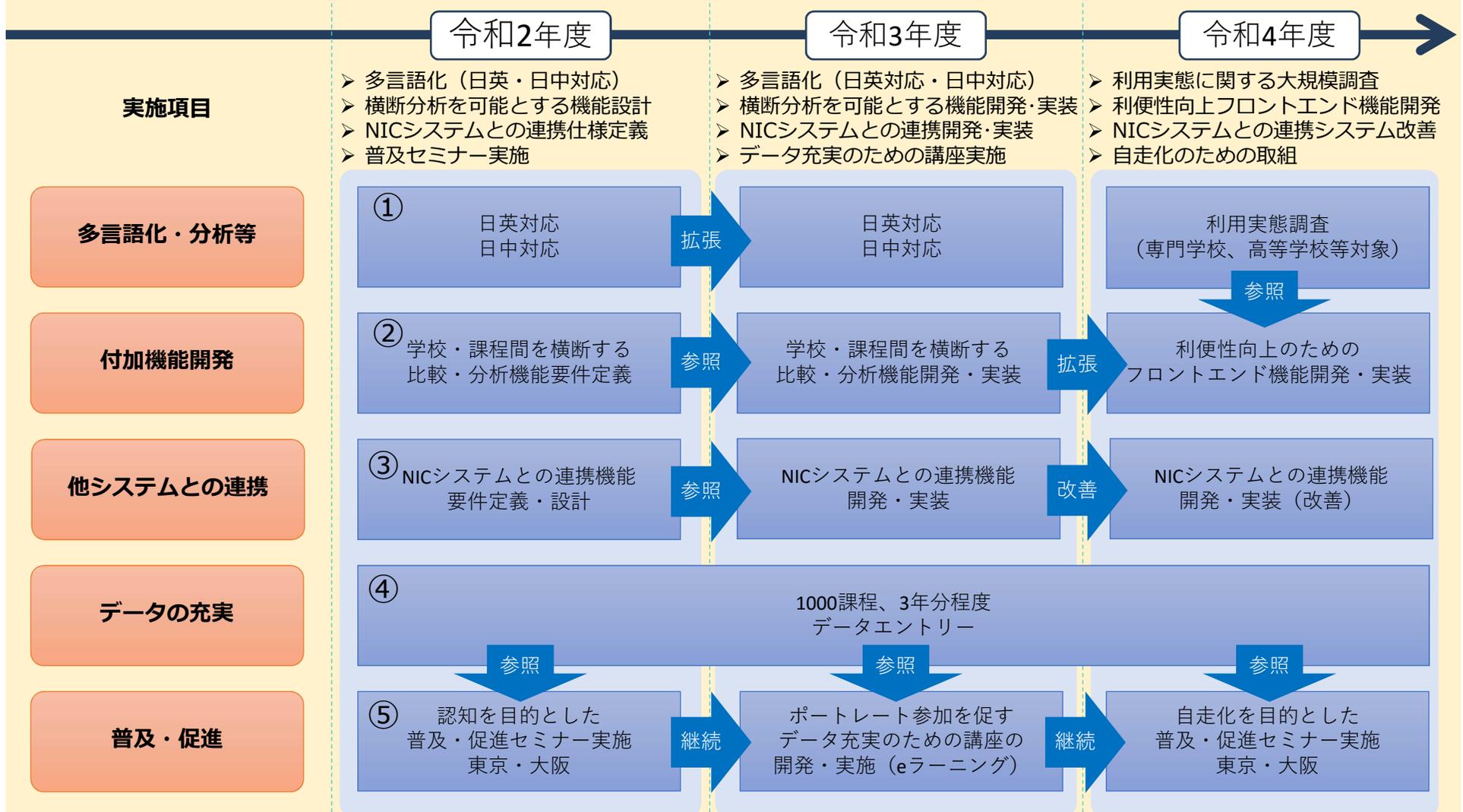
「職業実践専門課程の基本情報について」の様式に記述される主なデータ

データの種類	データ項目の例
学科・課程	認定課程名、認定学科名、分野、学科の目的、修業年限、昼夜区分
学校・設置者	学校名、設置認可年月日、校長名、所在地、設置者名、設置者代表者
学修時間	修了に必要な学修時間数、講義、演習、実習、実験、実技等の時間数
学生数	生徒総定員、生徒実員、留学生数
教員数	専任教員数、兼任教員数、総教員数
各種制度	学期制度、長期休み、学修支援、成績評価方法、卒業・進級条件、課外活動等
就職等の状況	主な就職先・業界等、就職指導内容、卒業者数、就職希望者数、就職者数、就職率、卒業者に占める就職者の割合、その他（進学者数など）
中途退学の現状	中途退学者数、中退率、中途退学の主な理由、中退防止・中退者支援のための取組
主な学修成果	国家資格・検定/その他・民間検定等（名称、種別、受験者数、合格者数）、その他
経済的支援制度	学校独自の奨学金・授業料等減免制度の有無、専門実践教育訓練給付対象・非対象
第三者評価	第三者評価の有無（有の場合、評価団体名称、受審年月、評価結果）
教育課程編成	教育課程編成における企業等との連携の考え方、教育課程編成委員会の情報（委員名簿、開催状況など）
企業連携授業	基本方針、連携内容、具体的な科目名と連携内容、連携企業名
企業連携研修	基本方針、研修実績（名称、頻度、内容）、研修計画
学校関係者評価	基本方針、評価項目、評価結果の活用状況、評価委員会名簿、公表方法
情報提供	基本方針、公表項目、情報提供方法
授業科目	各授業科目の名称、分類、概要、配当年次、時間数、授業方法、場所、教員

職業実践専門課程の情報公開方式の課題と ポートレート事業の目的

- 前スライドの様式は、文部科学省のホームページで表計算ソフトの形式のファイルとして提供されている。認定校は、このファイルをダウンロードして必要事項を記入してPDF形式のファイルに変換し、自校のホームページの任意の場所に公表している。様式は、集約化・標準化されており、認定課程の詳細な情報を知ることが可能である。この情報公開方式には、次のような課題が指摘されている。
- 課 題
 - ・ ホームページに公開する場所が学校の判断に委ねられているために、検索が容易でない。
 - ・ 公開されている情報が、年度ごと・課程ごとに一つのファイル形式であるため、課程間比較、時系列比較がしにくい。
 - ・ 公開されている情報は、PDF形式が大部分であるため、数値として活用しにくい。
 - ・ 様式は決まっているが、自由度の高い項目も多く、学校間の統一感に乏しい。
- 本事業は、「職業実践専門課程の基本情報について」に掲載された情報をデータベース化して、職業実践専門課程ポートレートして公表する取組。
- 標準化された基本情報をデータベース化して、編集・参照を可能とするシステムを構築する。また、各種検索機能や、時系列分析機能、横断分析機能、データのエクスポート機能などを実装することで、多くのステークホルダーにとってより有用なものとする。

ポートレート事業の全体計画



令和2年度事業概要と成果

- 専修学校の入学希望者には留学生も多く、海外で活躍する修了生も多いため、多言語化（日英・日中対応）を図る：自動翻訳システムWOVNの使用。自動翻訳による誤訳の対策（No. 6, 7）
- 横断分析を可能とする付加機能開発・設計：学校・課程間を横断する比較・分析機能要件の定義（No. 8～11）
- 高等教育資格証人情報センター（NIC）との提携：連携機能要件の定義・設計（No. 12）
- データの充実（No. 13, 14）
- 普及セミナーの実施：2月22日に「成果報告会・セミナー」をオンライン開催（No. 15）

多言語対応 (1)

● 多言語対応アプリ導入

自動翻訳システムWOVN

テスト導入として令和2年8月29日現在の本番データをテストサーバーおよびWOVNサーバーに複写、諸設定・機能テスト。

その後本番サーバーに設定し、11月中旬に本格稼働。本番稼働後のメンテナンスはユーザー側(QAPHE事務局)で実施。

● 誤訳対策

自動翻訳では、誤訳が発生するので、その対策が必要。

①用語集に固有名詞(学校名など)の翻訳を事前に登録しておく(以下は初期的な用語集を抜粋)。

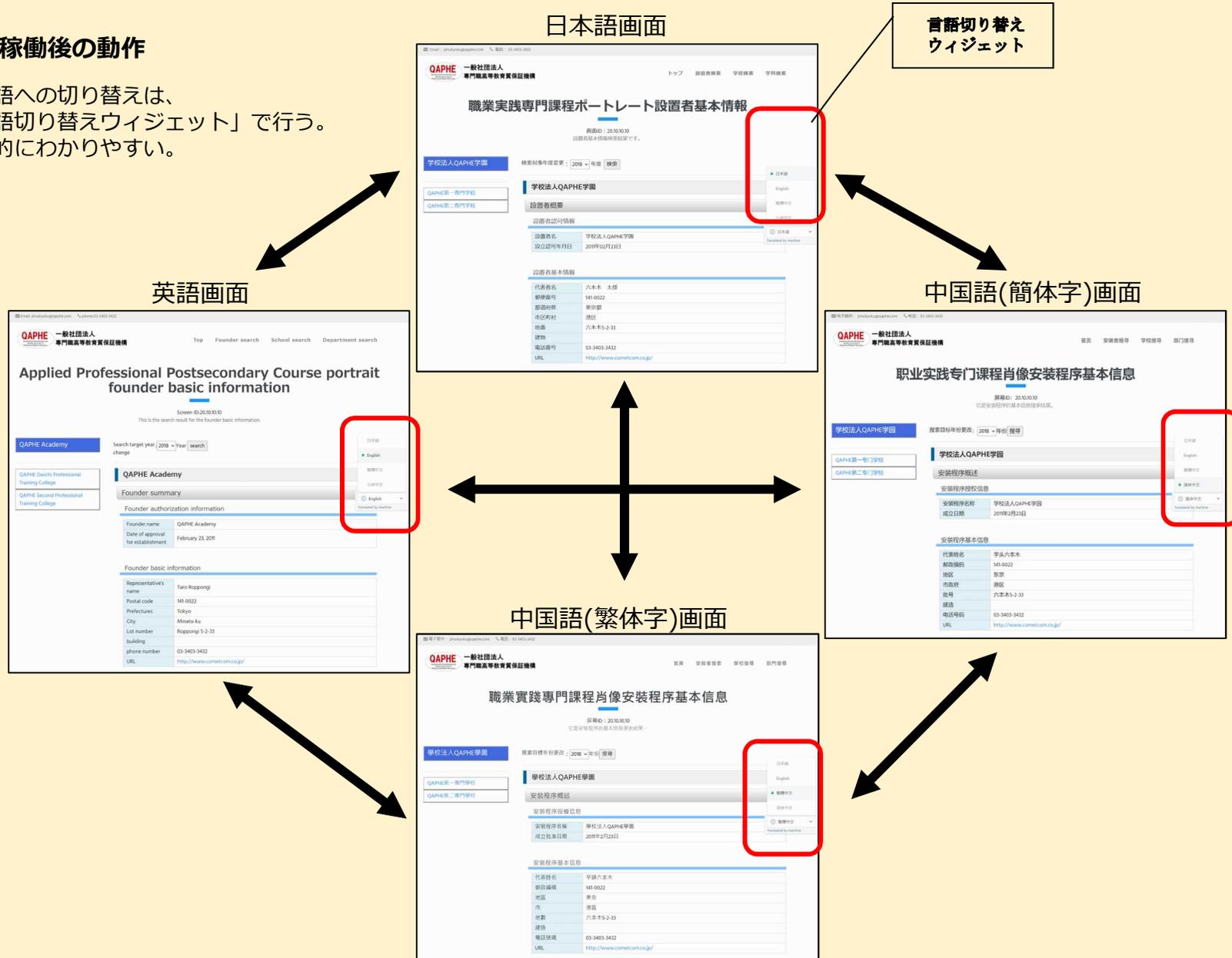
②目視で誤訳を発見し、手作業で修正(QAPHE事務局の仕事)

用語	英文	簡体字	繁体字
一般社団法人専門職高等教育質保証機構	The Institution for Accreditation and Quality Assurance of Professional Higher Education (QAPHE)	一般社団法人专门职高等教育质保证机构	一般社團法人專門職高等教育質保證機構
専修学校	Specialized Training College	专修学校	專修學校
専門課程	Postsecondary Course	专门课程	專門課程
職業実践専門課程	Applied Professional Postsecondary Course	职业实践专门课程	職業實踐專門課程
専門学校	Professional Training College	专门学校	專門學校
専門士	Diploma	专门士	專門士
高度専門士	Advanced Diploma	高度专门士	高度專門士
工業専門課程	Postsecondary Course(Technology)	工业专门课程	工業專門課程
農業専門課程	Postsecondary Course(Agriculture)	农业专门课程	農業專門課程
医療専門課程	Postsecondary Course(Medical Care)	医疗专门课程	醫療專門課程
衛生専門課程	Postsecondary Course(Personal Care and Nutrition)	卫生专门课程	衛生專門課程
教育・社会福祉専門課程	Postsecondary Course(Education and Welfare)	教育・社会福祉专门课程	教育・社會福利專門課程
商業実務専門課程	Postsecondary Course(Business)	商业实物专门课程	商業實務專門課程
服飾・家政専門課程	Postsecondary Course(Fashion and Home Economics)	服飾・家政专门课程	服飾・家政專門課程
文化・教養専門課程	Postsecondary Course(Culture and General Education)	文化・教育专门课程	文化・教養專門課程
専門学校岡山情報ビジネス学院	Okayama Information College	专门学校岡山情报商业学院	專門學校岡山情報商業學院
朝日医療大学校	Asahi Medical College	朝日医疗大学校	朝日醫療大學校
高崎動物専門学校	Takasaki Animal Professional Training College	高崎动物专门学校	高崎動物專門學校
松江理容美容専門学校	Matsue College of Hair Design	松江理容美容专门大学校	松江理容美容專門大學校
四国医療専門学校	Shikoku Medical College	四国医疗专门学校	四國醫療專門學校
国際動物専門学校	International Animal Health & Management College	国际动物专门学校	國際動物專門學校
中央情報専門学校	Chuo Computer & Communication College	中央情报专门学校	中央情報專門學校
早稲田文理専門学校	Waseda-Bunri College of Arts & Sciences	早稻田文理专门学校	早稻田文理專門學校
修成建設専門学校	Syusei Technical College	修成建设专门学校	修成建設專門學校
ECCコンピュータ専門学校	ECC College of Computer and Multimedia	ECC COMPUTER专门学校	ECC COMPUTER專門學校
ECC国際外語専門学校	ECC Kokusai College of Foreign Languages	ECC国际外语专门学校	ECC國際外語專門學校
ECCアーティスト美容専門学校	ECC College of Beauty & Style	ECC ARTIST美容专门学校	ECC ARTIST美容專門學校
奈良歯科衛生士専門学校	Nara Dental Hygienist College	奈良齿科卫生士专门学校	奈良齒科衛生士專門學校
ハリウッド美容専門学校	HOLLYWOOD BEAUTY COLLEGE	好莱坞美发美容专修学院	好萊塢美髮美容專修學院
大阪ハイテクノロジー専門学校	Osaka College of High Technology	大阪高新技术专业学院	大阪高新技術專業學院
高津理容美容専門学校	The Kozu Beauty & Hairdressing College	高津理容美容专门学校	高津理容美容專門學校
アリアービューティー専門学校	Aliare Beauty Vocational School	Aliare Beauty专门学校	Aliare Beauty專門學校

多言語対応 (2)

本番稼働後の動作

各言語への切り替えは、「言語切り替えウィジェット」で行う。
直感的にわかりやすい。



横断分析機能 (1)

● 現在の検索機能

設置者 (学校法人) 検索

QAPHE 一般社団法人 専門職業高等教育質保証機構

設置者検索条件設定

画面ID: 20.30
専修学校職業実践専門課程認定校の設置者検索条件を設定してください。

年度: 2020

設置者名:

代表者名:

学校の所在地

北海道地方 東北地方

北海道 青森県 岩手県 秋田県 山形県 福島県

関東地方 中部地方

茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県

新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県

近畿地方 中国地方

三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県

鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県

四国地方 九州・沖縄地方

徳島県 香川県 愛媛県 高知県

福岡県 佐賀県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県

[選択条件で検索](#)

QAPHE 一般社団法人 専門職業高等教育質保証機構

職業実践専門課程ポートレート設置者検索結果一覧

画面ID: 20.30.30
設置者検索結果一覧から詳細を表示する設置者を選択してください。

群馬県	学校法人MGL学園
群馬県	学校法人小倉学園
埼玉県	学校法人中央情報学園
東京都	学校法人泉緑学園
東京都	学校法人大原学園
東京都	学校法人駿河台学園
東京都	学校法人東京滋慶学園
東京都	学校法人敬心学園
東京都	学校法人QAPHE学園

学校検索

QAPHE 一般社団法人 専門職業高等教育質保証機構

学校検索条件設定

画面ID: 20.20
専修学校職業実践専門課程認定校の学校検索条件を設定してください。

年度: 2020

設置者名:

代表者名:

学校名:

校長名:

学校の所在地

北海道地方 東北地方

北海道 青森県 岩手県 秋田県 山形県 福島県

関東地方 中部地方

茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県

新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県

近畿地方 中国地方

三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県

鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県

四国地方 九州・沖縄地方

徳島県 香川県 愛媛県 高知県

福岡県 佐賀県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県

[選択条件で検索](#)

QAPHE 一般社団法人 専門職業高等教育質保証機構

職業実践専門課程ポートレート学校検索結果一覧

画面ID: 20.20.30
学校検索結果一覧から詳細を表示する学校を選択してください。

群馬県	高崎動物専門学校
埼玉県	中央情報専門学校
東京都	日本指圧専門学校
東京都	大原法律専門学校
東京都	大原簿記学校
東京都	駿台電子情報アントビジネス専門学校
東京都	新東京歯科理工士学校
東京都	日本歯歯薬専門学校
東京都	新宿鍼灸柔整歯科衛生専門学校

学科検索

QAPHE 一般社団法人 専門職業高等教育質保証機構

学科検索条件設定

画面ID: 20.30
専修学校職業実践専門課程認定校の学科検索条件を設定してください。

年度: 2020

学校名:

認定学科名:

認定課程名:

分野

工業 農業 医療 衛生 教育・社会福祉 商業事務 芸術・家政 文化・教養

称号

専門士 高度専門士

学修支援

クラス担任

経済的支援制度

学校独自の奨学金・授業料等減免制度 専門実践教育訓練給付対象

第三者による学校評価

民間の評価機関等からの第三者評価

[選択条件で検索](#)

QAPHE 一般社団法人 専門職業高等教育質保証機構

職業実践専門課程ポートレート学科検索結果一覧

画面ID: 20.30.30
学科検索結果一覧から詳細を表示する学校を選択してください。

群馬県	高崎動物専門学校
	ペットビジネス学科
埼玉県	中央情報専門学校
	IT・Web学科
	ビジネスデザイン学科
東京都	日本指圧専門学校
	鍼灸科
東京都	大原法律専門学校
	法務ビジネス学科 公務員 & 民間就職コース
	法律行政学科 Ⅱ種・初級【事務系】コース
東京都	大原簿記学校

横断分析機能 (2)

時系列分析機能

基本情報 評価結果 第三者評価 教育課程編成 企業連携授業 教員研修 学校関係者評価 学校情報提供

検索項目 **時系列比較**

QAPHE第一専門学校 CSVダウンロード: Shift-JIS(Windows) 文字コードを選択してください ダウンロード

検索対象年度変更: 2019 年度 検索

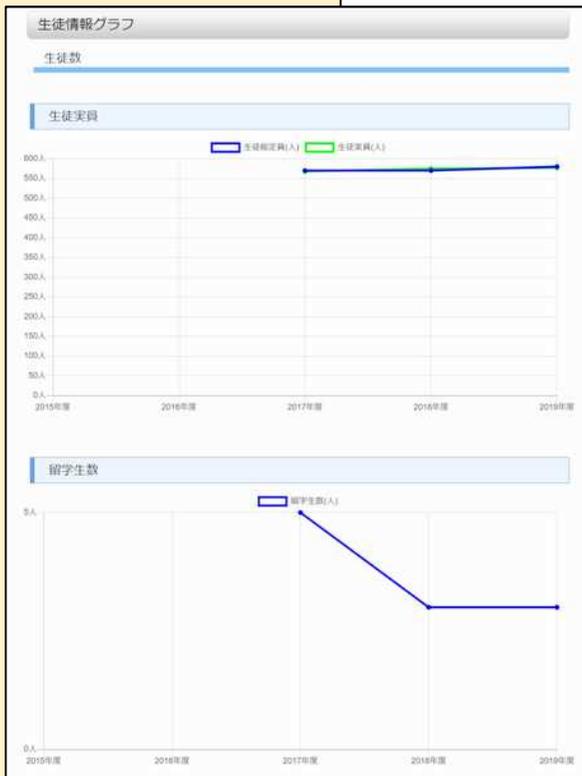
QAPHE第一専門学校 A学科

生徒情報

生徒数

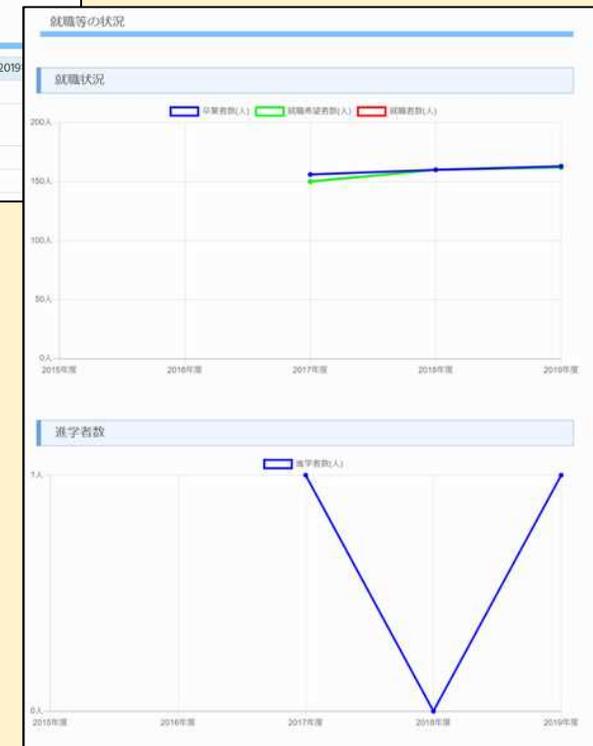
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
生徒総定員(人)			570	570	580
生徒実員(人)			568	575	577
留学生数(人) (生徒実員の内数)			5	3	3

ある専門学校について、指定年から過去5年分のデータを表示



就職等の状況

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
卒業生数(人)			156	160	
就職希望者数(人)			150	160	
就職者数(人)			150	160	
進学者数(人)			1	0	



生徒数、就職等の状況について
グラフ化表示

横断分析機能 (3)

● 単純な横断分析的表示画面とグラフ

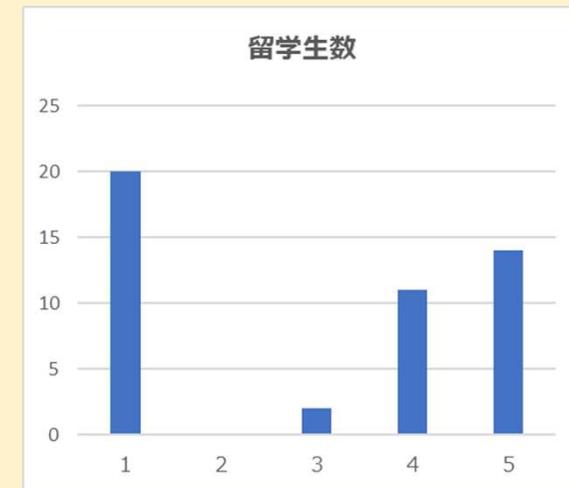
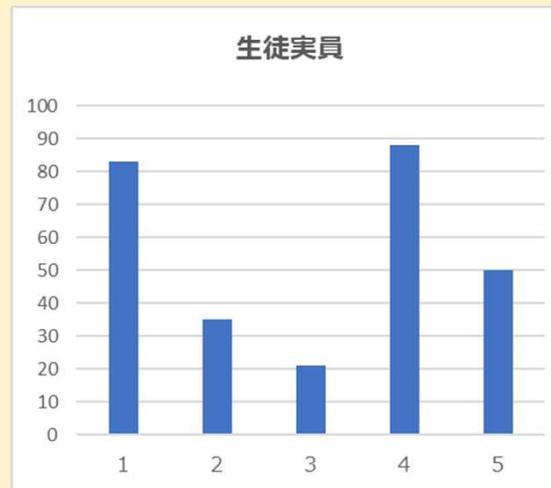
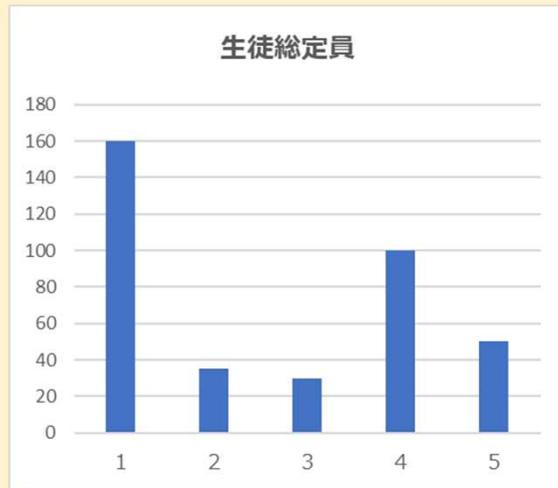
条件検索の結果が学科単位で表に表示される。
数値データは棒グラフ化されて比較できる。

No.	年度	学校名	学科名	生徒総定員	生徒実員	留学生数
1	2019	A専門学校	ITビジネス学科	160	137	20
2	2019	B専門学校	ゲームCG学科	35	35	0
3	2019	B専門学校	Webクリエイター科	30	21	2
4	2019	C専門学校	情報処理科	100	88	11
5	2019	C専門学校	マルチメディア科	50	50	14

他学科との横断的データ比較ができる

これらのデータはエクスポートでき、より詳細な分析に利用できる

数値データの他学科との横断的分析(グラフ化)



横断分析機能 (4)

● 層別分析

条件検索の結果が学科単位で表に表示される。

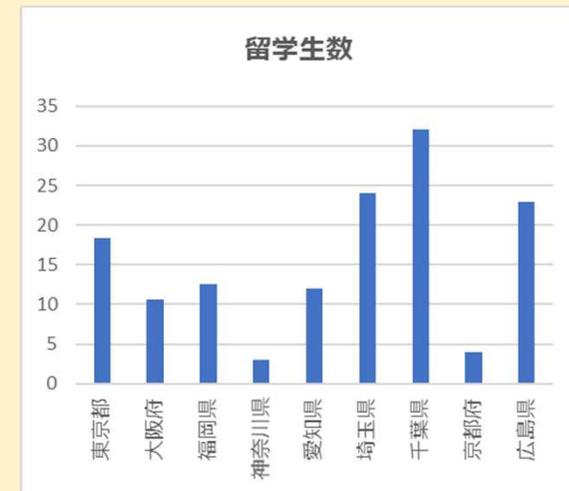
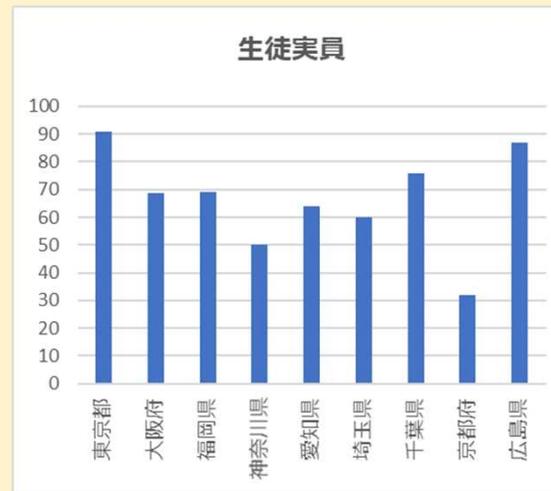
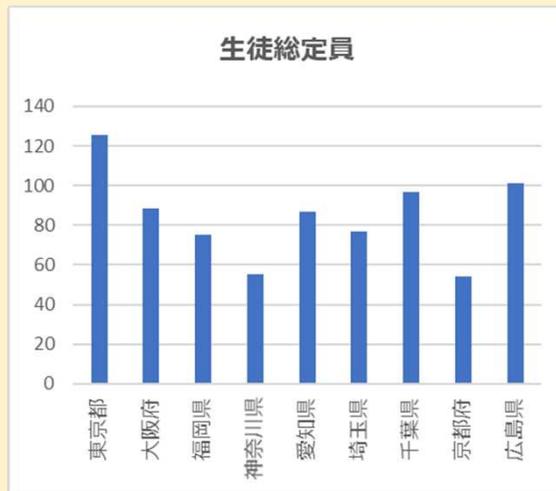
No.	年度	都道府県	学校名	学科名	生徒総定員	生徒実員	留学生数
1	2019	東京都	A専門学校	ITビジネス学科	160	83	20
2	2019	大阪府	B専門学校	ゲームCG学科	35	35	0
3	2019	大阪府	B専門学校	Webクリエイター科	30	21	2
4	2019	福岡県	C専門学校	情報処理科	100	88	11
5	2019	福岡県	C専門学校	マルチメディア科	50	50	14
6	2019	東京都	D専門学校	CG学科	90	90	30
:	2019	:	:	:	:	:	:

層別分析は様々な項目で行えるが一例として「都道府県」で層別分析すると...

都道府県でグループ化した数値の平均が表に表示される。

都道府県	生徒総定員	生徒実員	留学生数
東京都	125	91	18
大阪府	88	69	11
福岡県	75	69	13
神奈川県	55	50	3
愛知県	87	64	12
埼玉県	77	60	24
千葉県	97	76	32
京都府	54	32	4
広島県	101	87	23

層別分析した数値データでグラフ化



本年度は設計まで。実装は来年度

高等教育資格認証情報センター（NIC）システムとの連携



データの充実 (1)

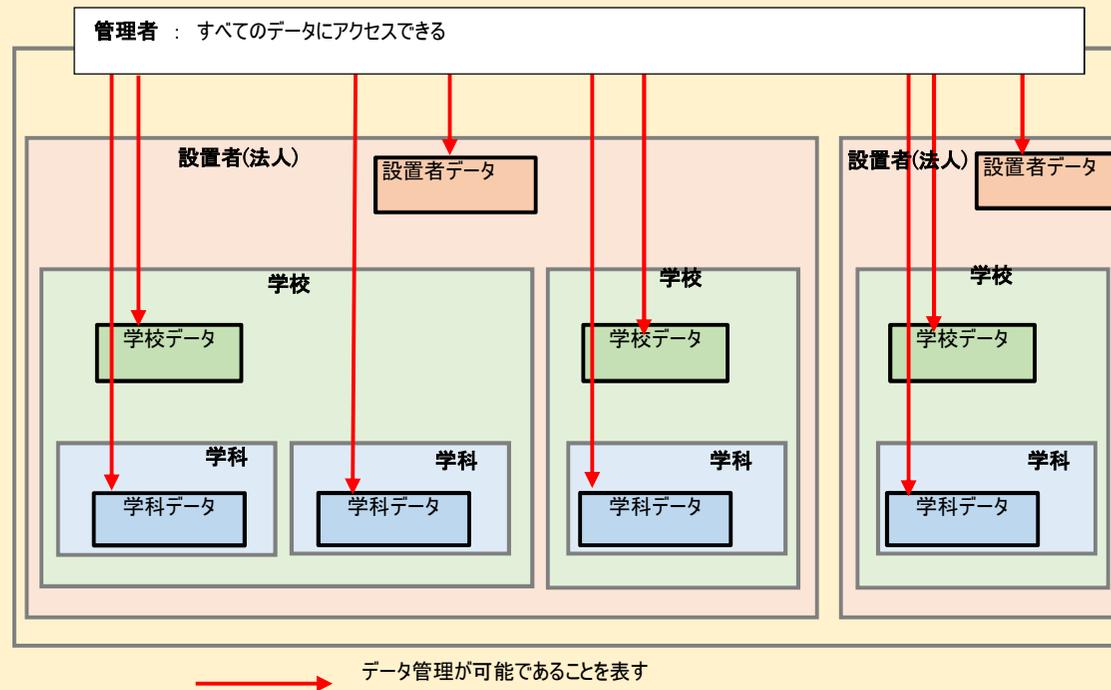
- データ量とその鮮度が重要

最新の職業実践専門課程のデータは毎年7月末を基準日に公表され、事務局だけでは対応できない

- 各校に自校のデータ管理を依頼したいが・・・

現在の仕組みでは、データ更新の権利を持つユーザ(管理者)は、1種類。

- すべての学校のデータ更新ができてしまう・・・



データの充実 (2)

● 自校データのみデータ更新できるようにアクセス権を整理・細分化

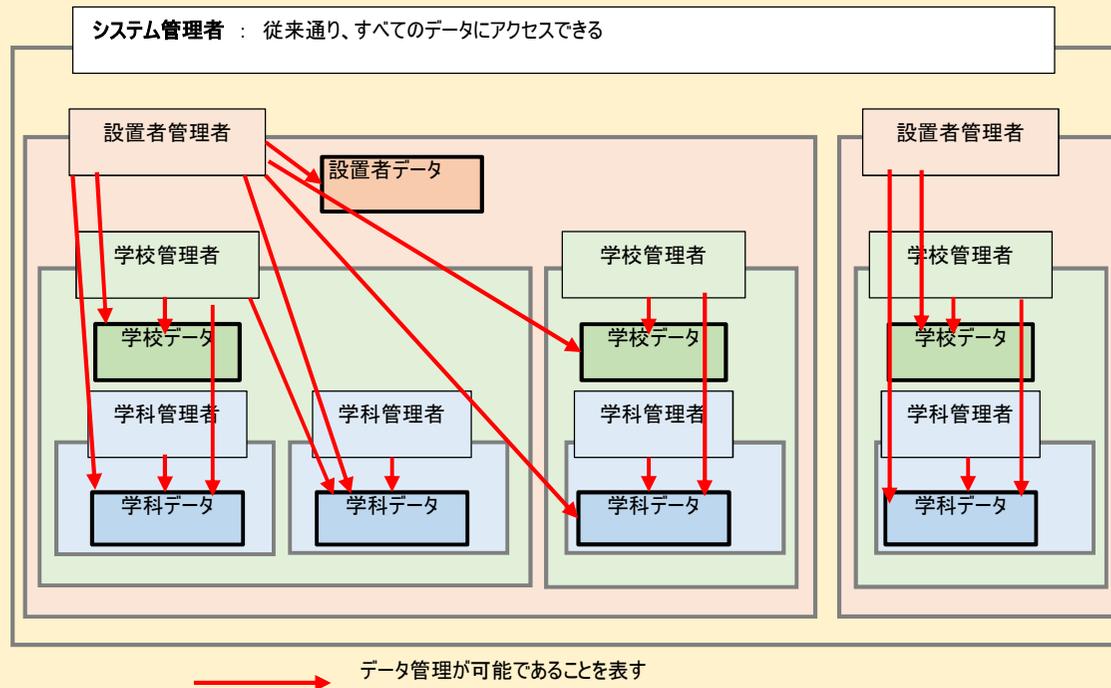
システム管理者 : システム内のすべての管理権限を有する (従来の管理者)

設置者管理者	: 設置者内のすべての管理権限を有する。
学校管理者	: 特定の学校内に限定した管理権限を有する。
学科管理者	: 特定の学科内に限定した管理権限を有する。

← まとめて「設置者ユーザ」という。

※設置者は運営する法人

● 自校のデータは自校内で管理できる



● ポートレートの利点を伝える

多言語化によって、英語や中国語のページを作成できる。

多くの学校の情報があることによって、社会への情報公開や高等学校の進路指導等に利用価値が高まる。

各種の分析機能によって、新たな情報を入手可能である。

● セミナー開催

東京、大阪でセミナー開催予定したが、コロナ禍の影響で会場を設定しての開催は難しいためオンライン開催とした。

● 方法

オンライン開催

● 目的

ポートレート事業、コンピテンシー事業、FD・SD事業の認知と成果普及

● 時期・方法等

令和3年2月22日（月） 13:30～17:00 オンラインセミナー

● 内容

プログラム参照

● 参加者

約60名

令和2年度文部科学省委託事業 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進

成果報告会・セミナー

令和3年 **2.22** (月) 13:30～17:00 **オンライン 参加費:無料** 【敬称略】

プログラム

13:30～13:35	開 会 (オンライン操作説明)	事務局
13:35～14:35	学修成果を主題とする質保証:リカレント教育が最重要テーマ <small>一般社団法人専門職高等教育質保証機構 代表理事</small>	川口 昭彦
14:35～15:10	コンピテンシー事業 成果報告 ポートレート事業 成果報告 ポートレートシステム仕様解説 FD/SD 事業 成果報告	事務局
15:10～15:20	休 憩	
15:20～16:20	東京規約とNIC、資格枠組の国際的動向 <small>独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 准教授</small>	野田 文香
16:20～16:35	質疑応答	
16:35～16:55	講 評 <small>文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課専修学校教育振興室</small>	河村 和彦
16:55～17:00	事務局からの連絡	事務局



一般社団法人 専門職高等教育質保証機構

<http://qaphe.com/>

当機構は文部科学大臣の認証を受けた専門職大学院の第三者評価機関(ビューティビジネス分科)です

令和2年度事業成果報告資料 (FD・SD事業)

体系的な教職員研修プログラムの実用化に向けた改善・普及・展開

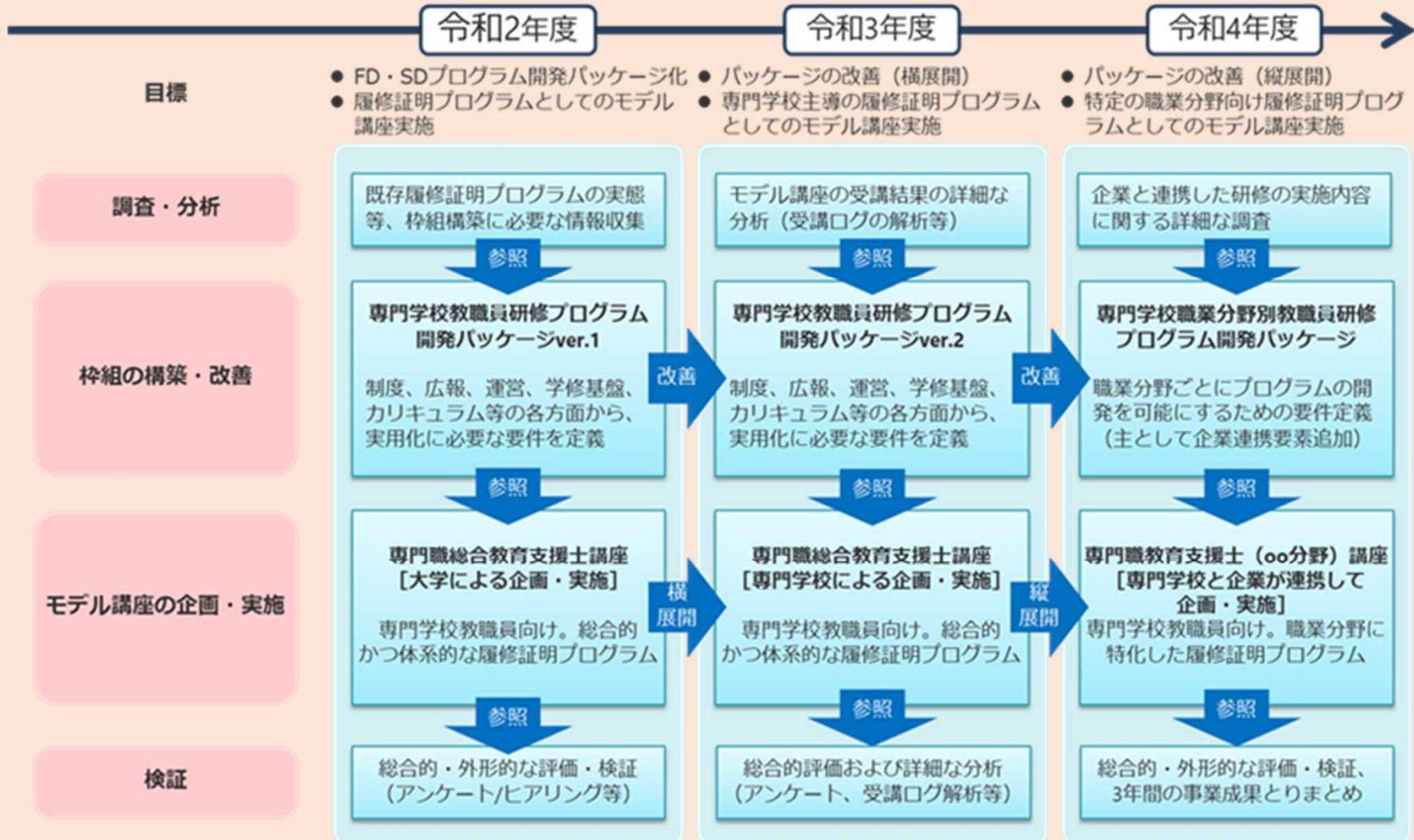
一般社団法人専門職高等教育質保証機構

2021年3月

QAPHE

Institution for Accreditation and
Quality Assurance of
Professional Higher Education

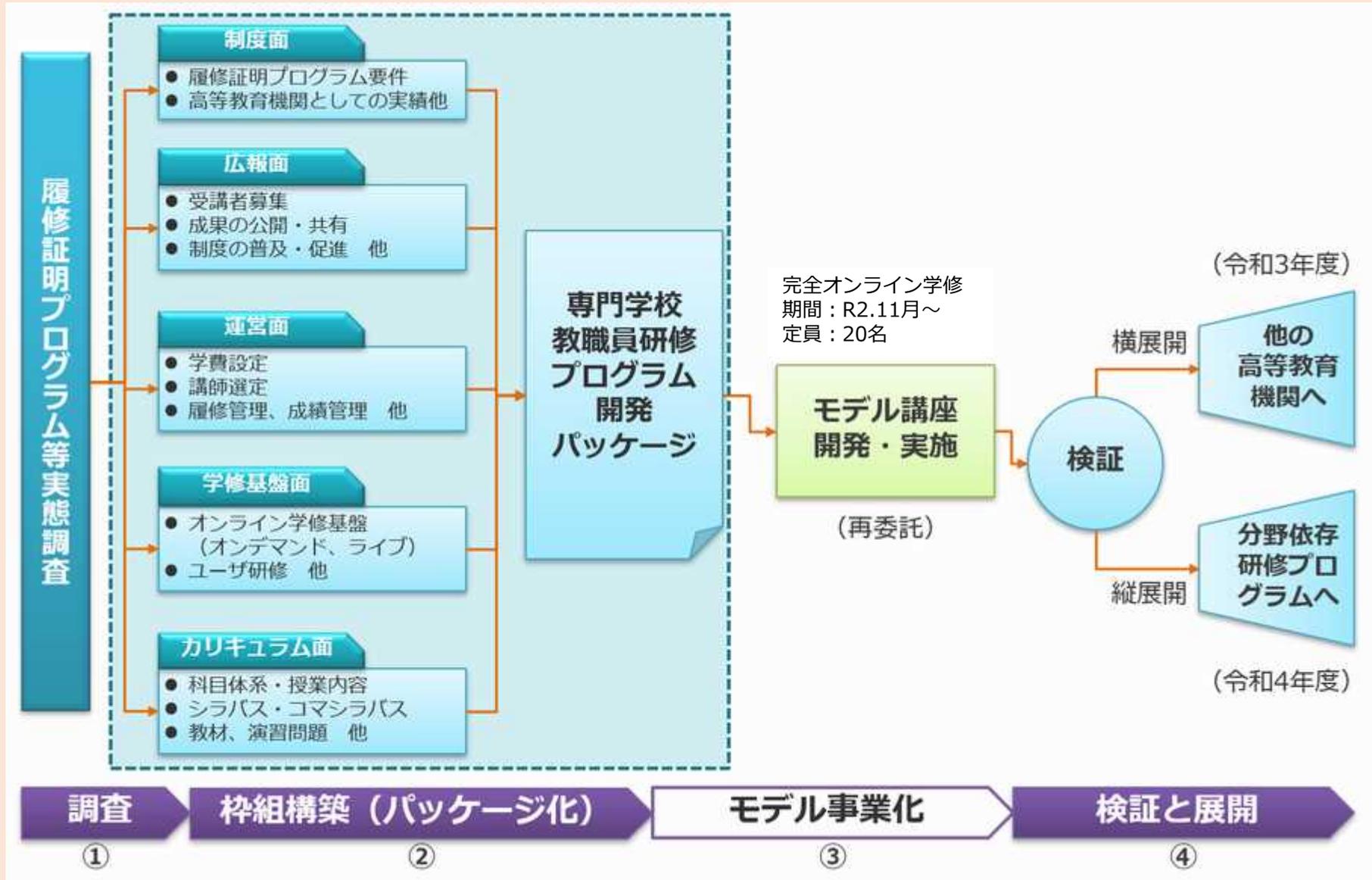
FD・SD事業の全体計画



令和2年度事業概要と成果

- 令和元年には「実証講座」を開設：全デマンド、演習は授業ごと（任意）、QAPHE会員校教職員を対象、合計約120名が参加、修了証を発行
- 令和2年度からは、「実証講座」を「履修証明プログラム」へ発展させる事業に取り組む：モデル講座の企画と実施（No. 4）
- 既存の履修証明プログラムの実体等、枠組み構築に必要な情報収集（No. 5～7）
- 専門学校教職員研修プログラム開発パッケージ ver. 1 を作成：制度、広報、運営、学修基盤、カリキュラム等の視点から、実用化に必要な要件を定義（No. 8, 9）
- 「専門職教育支援士講座」を企画・実施：専門学校教職員向けに、総合的・体系的な履修証明プログラムを企画・実施：オンデマンド+リアルタイム、科目ごとに課題（レポート or 試験）、「専門職教育支援士」履修証明書を発行（No. 10, 11）
- アンケート／ヒアリング等による評価・検証（No. 12）

令和2年度の取組



履修証明プログラム実態調査 (1)

● 目的

- 履修証明プログラム活用状況を明らかにする
- パッケージ化の参考とする

● 方法

- 職業実践力育成プログラム (BP) を対象
- 平成27～令和元年度のBPリスト
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/bp/index.htm
 →重複を避けて履修証明プログラムの情報収集

● 収集項目

BPパッケージで公開を求めている以下の項目

設置形態、大学等の名称、所在地、課程名、開設年月、定員、期間、目的・概要、4テーマ（「女性活躍」、「非正規労働者のキャリアアップ」、「中小企業活性化」、「地方創生（地域活性化）」のいずれか）、履修資格、対象職業、身に付けることのできる能力、教育課程、修了要件（終了授業時数等）、総授業時間数、要件該当授業時数、成績評価方法、自己点検・評価方法、修了者の状況に係る効果検証方法、企業等の意見を取り入れる仕組み、社会人が受講しやすい工夫、授業料、備考

● 分析方法

領域・分野の分類、定員、期間、時間数、授業料等の分布

● 結果

● 186の事例を収集

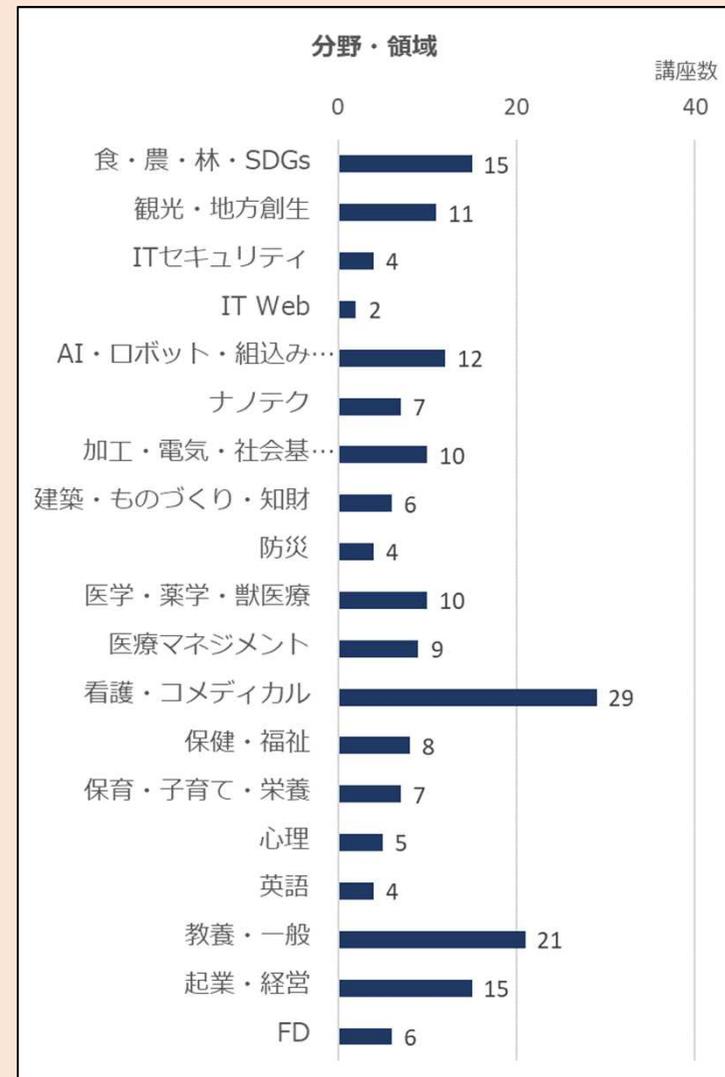
要約

<https://drive.google.com/file/d/1RFauFNhKxXbneXty0IF4WPkFS3ESyec6/view?usp=sharing>

本体

<https://drive.google.com/file/d/1Cnfwx8ABTkh6V0t3oydyIMz6Dti7LHpE/view?usp=sharing>

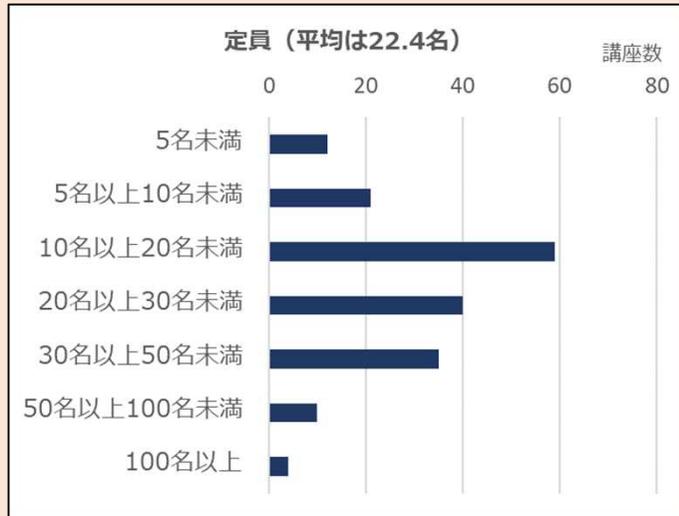
- 大学・大学院が172（ほとんど）、短大13、高専1
- 分野・領域
 - ✓ 医療・看護系が目立つもバラエティに富んでいる



履修証明プログラム実態調査 (2)

定員

20名程度が標準もバリエーション大



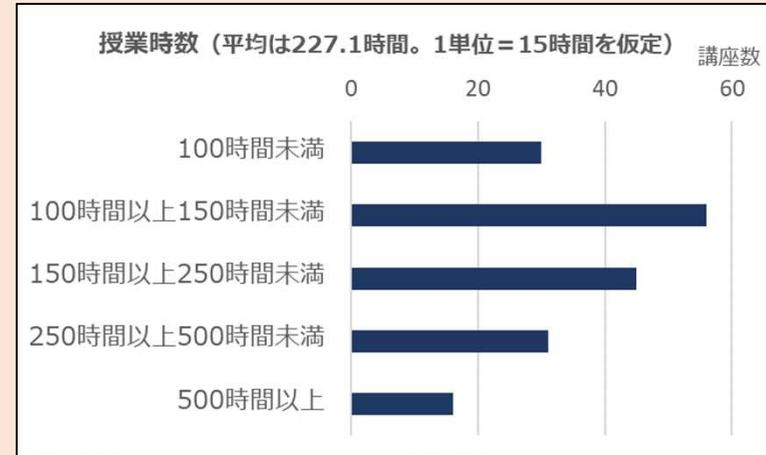
期間

平均およそ1年。2年を設定している講座も多い



授業時数

120時間 (旧ルール) 以上も多いが、60時間 (新ルール) も一定程度存在



授業料

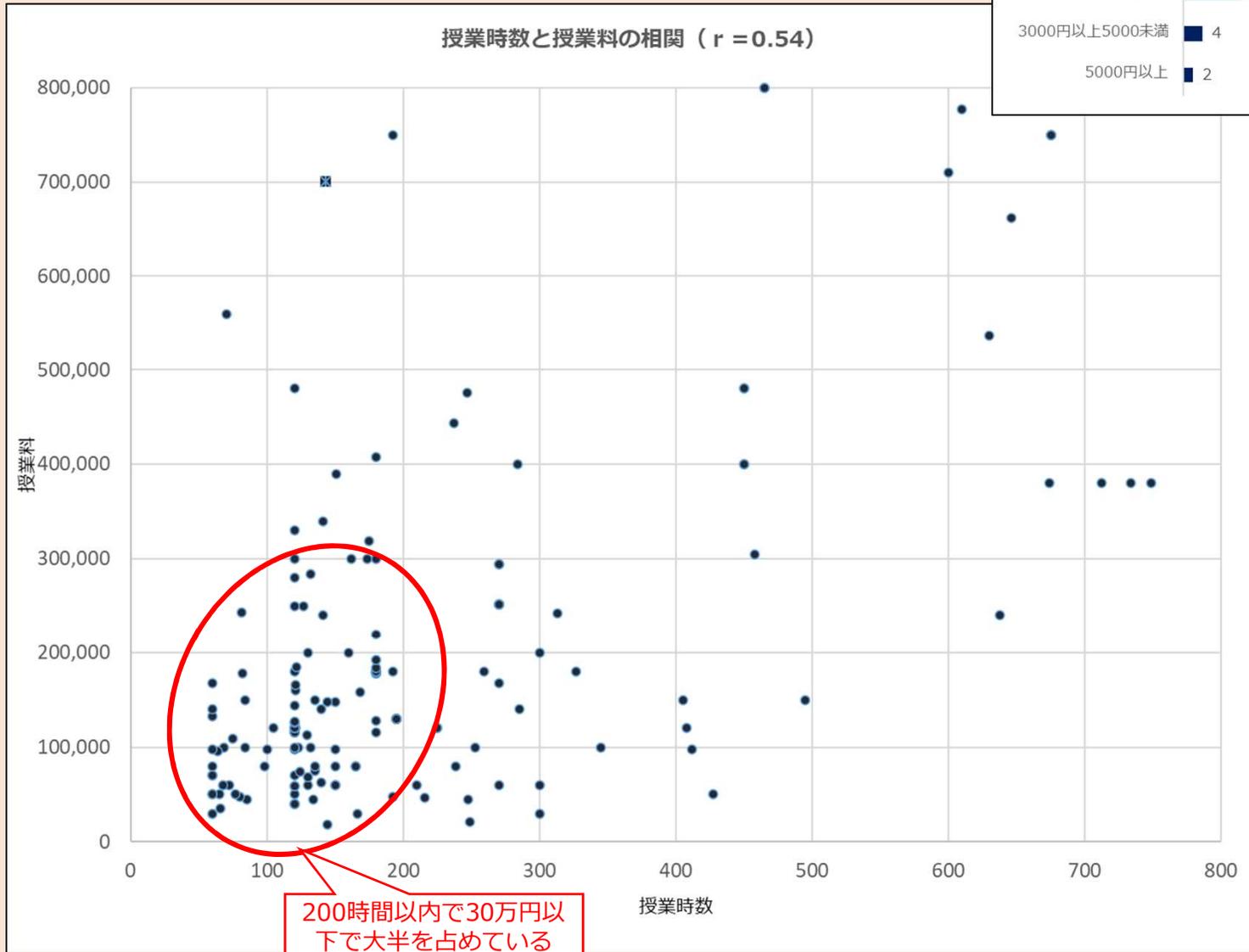
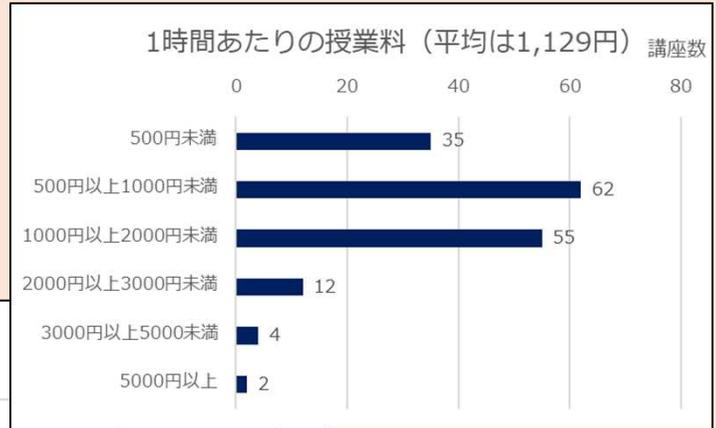
20万円程度。補助や助成があって0円のものも7例あり



履修証明プログラム実態調査 (3)

- 授業時間数と授業料

1時間あたりの授業料は1,000円強



枠組構築（パッケージ化）（1）

● 目的

- 専門学校教職員のFD・SDを推進する教育プログラムの開発・実施推進

プログラムの目的を限定し、履修証明制度を活用することを前提とするパッケージ化により、教育プログラムの水準の高度化・手続きの簡素化を図る。

● モデル①

職業実践力育成プログラム（BP）制度 [H27～]

教育再生実行会議「「学び続ける」社会、全員参加型社会、地方創生を実現する教育の在り方について（第六次提言）」（平成27年3月）を受けて、大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」（BP）として文部科学大臣が認定することとしました。

これにより、

1. 社会人の学び直す選択肢の可視化、
 2. 大学等におけるプログラムの魅力向上、
 3. 企業等の理解増進
- を図り、厚生労働省の教育訓練給付制度とも連携し、社会人の学び直しを推進します。

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/bp/index.htmより

● モデル②

キャリア形成促進プログラム認定制度

キャリア形成促進プログラム認定制度について 別添1

平成29年3月「これからの専修学校教育の振興のあり方について」（報告）

— これからの専修学校教育の振興のあり方検討会議（文部科学省）—

【社会人受入れ】

④社会人学び直し促進の具体的展開

- 専門学校による社会人等向け短期プログラムについて、現在の「職業実践専門課程」のように文部科学大臣が認定する仕組みを構築することはその大きな後押しとなるところであり、働き方改革を実現する上でも、制度の創設は重要である。また、新たな仕組みにより認定された講座の専門実践教育訓練給付の対象化についても、併せて検討が求められる。

平成30年6月 第3期教育振興基本計画（閣議決定）

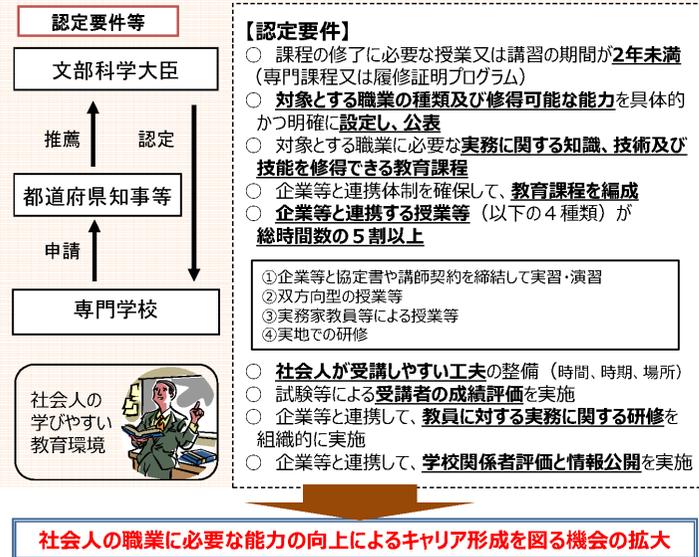
第2部 今後5年間の教育政策の目標と施策群

3. 生涯学び、活躍できる環境を整える

目標（12）職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進

- 社会人が働きながら学べる学習環境の整備
- 長期履修学生制度や履修証明制度の活用促進、複数の教育機関による単位の累積による学位授与の拡大に向けた検討や、大学・大学院や専門学校における社会人等向け短期プログラムの大臣認定制度の創設を行うとともに、通信講座やe-ラーニングの積極的活用等による学び直し講座の開設等を促進することにより、時間的制約の多い社会人でも学びやすい環境を整備する。

※認定数10校、12学科（平成31年1月11日現在）



枠組構築（パッケージ化）（2）

● パッケージ項目

• 基本項目

学校名、課程名称、開設年月日、定員、付与資格等
高等教育機関としての実績

• 学修時間・内容（概要）

履修要件、学修目的、学修目標（身に付ける能力）、学習期間、授業時数等

• 学修方法

講義/演習/実習の方法、オンライン授業活用

• カリキュラム・講師

カリキュラム体系、シラバス、コマシラバス、教材（テキスト、演習問題）、講師

• 評価

成績評価方法、修了要件、自己点検・評価方法、効果検証方法

• 運営

運営体制（責任者、組織）、学費設定、講師選定、履修管理

• 広報

ホームページ、対一般提供情報、対企業提供情報

• その他

企業連携

モデル講座「専門職教育支援士」履修証明プログラム(1)

令和元年度実証講座の経験を基に、「専門職教育支援士」プログラムの試行

定員 20名

授業料 無料

すべてオンライン授業

オンデマンド+リアルタイム

10月募集開始（募集開始後1週間で22名）

令和元年度実証講座受講者優先

受講実績は引継ぎ（同じオンデマンド授業の場合）

11月21日開講～2月28日閉講（100日間）

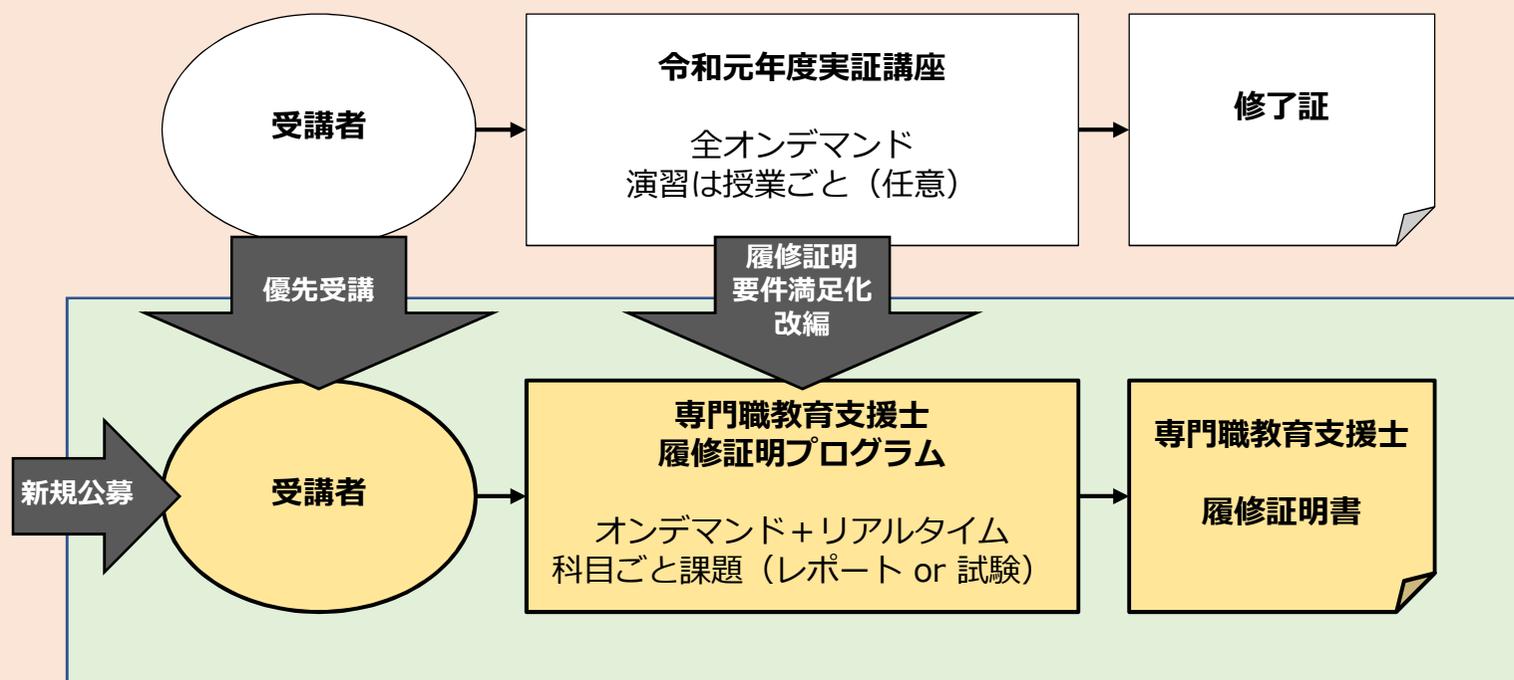
オンデマンド学修 知識習得が主開講時～2か月程度が目安

リアルタイム学修 演習とまとめ1月12日～2月16日（火・木の夜間）

成績評価は1科目につき原則1課題（レポート）で決定

授業ごとの演習は必修とはしない

全科目単位修得 ⇒ 履修証明書 取得



モデル講座「専門職教育支援士」履修証明プログラム(2)

● カリキュラム

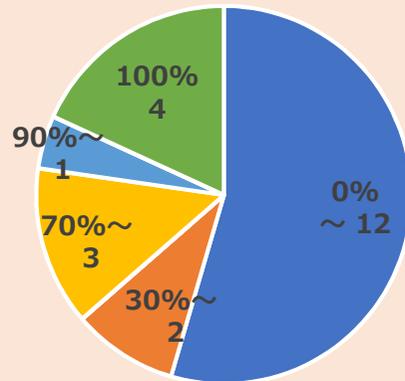
令和元年度の実証講座カリキュラム + 令和2年度新規・改変授業

区分	科目	講師	学修時間			
			オンデマンド	リアルタイム		
オリエンテーション		江島夏実	15分			
A	基本科目 専門職教育の意義、方針の理解促進を図ります。	A1	プロフェッショナルディベロップメント	大野精一、三輪建二	約1時間	1時間
		A2	専門職教育における三つのポリシー	江島夏実、川口昭彦	約1時間15分	30分
		A3	リカレント教育 - 生産性向上に貢献する -	川口昭彦	約1時間	30分
		A4	専門職教育質保証の基礎と実践	川口昭彦	約1時間20分	30分
		A5	学修成果・教育成果の可視化	川口昭彦、野田文香	約1時間20分	1時間
B	学修者支援科目 生徒・受講者の学修、キャリア形成の特性に対する理解を助長します。	B1	カウンセリング能力	大野精一	約5時間10分	1時間30分
		B2	キャリアの形成と発展	大野精一、三輪建二	約2時間	1時間
		B3	発達障害	岩澤一美	約1時間30分	1時間30分
C	授業運営科目 教員として、授業の効率や効果高めるのに役立つ知識・方法を学修します。	C1	カリキュラムデザイン	仲 久徳	約1時間45分	1時間30分
		C2	ファシリテーション	三田地真実	約1時間30分	1時間
		C3	学習指導能力	三輪建二	約4時間30分	1時間30分
		C4	学級運営	大隅心平	約4時間40分	1時間30分
		C5	IT活用教育実践	斎藤俊則	約1時間30分	1時間30分
D	学校運営科目 学校の教職員として、学校の運営・経営を効率的・効果的に進めることに役立つ知識・方法を学修します。	D1	教育課程編成委員会・学校関係者評価の運用	江島夏実、川口昭彦	約1時間	30分
		D2	説明責任と情報公開	江島夏実、川口昭彦	約1時間	30分
		D3	専門学校経営におけるガバナンスとマネジメント	江島夏実、川口昭彦	約4時間	1時間
		D4	専門職教育質保証の実務	江島夏実、川口昭彦	約3時間15分	1時間
		D5	授業改善の実務	江島夏実、川口昭彦	約45分	30分
E	研修企画科目 学内研修を企画し、自ら実施する能力を育成します。	E1	研修方法論	三田地真実	約2時間15分	1時間

モデル講座「専門職教育支援士」プログラム実証

- 授業期間：令和2年11月21日～令和3年2月28日
- 受講者数：22名
- リアルタイム授業（オンラインスクーリング）：毎回約10名前後出席
- 2月15日現在の修得レポート提出状況

修得レポートはオンラインスクーリング終了直後に出題される
現時点での出題レポート数：20問（16日に1問追加出題）
受講者が何%のレポートを提出したかグラフ化した



- 約半数の受講者はまったくレポート提出していない
- 3分の1の受講者がレポート提出70%以上

● 2月19日現在のアンケート回答より（一部抜粋）

◆ 1本の動画再生時間について

- ✓ 時間的には丁度いい
- ✓ 15分程度ならいい、30分以内ならいい、30分程度ならいい
- ✓ 1時間は長い、長時間だと集中力が続かない
- ✓ 勤務しながらなので、まとまった時間を確保することが難しい。
- ✓ オンデマンドで隙間時間を活用できてよかった

◆ 追加してほしい科目や学修内容

- ✓ 専門学校教職員がターゲットなら、学術的な内容よりも実務に役立つ内容であってほしい
- ✓ リモート学習方法の具体的な事例があると今後の授業の参考になる
- ✓ 学生の状況を知る上での人間行動学や心理学など学んでみたい
- ✓ 教育機関のガバナンス、教職員のモチベーションアップなど

◆ その他、自由意見

- ✓ 受講生同士の意見交換もできればよかった
- ✓ 参加して良かった
- ✓ 知らない知識等も学ぶことが多い実りある研修となりました
- ✓ 勤務があるのでスクーリングが平日で参加することが難しかった
- ✓ 修得レポートは要点整理に非常に効果的
- ✓ 今後に活かしていきたい
- ✓ 他分野の先生方の状況や考えを聞ける非常に良い機会
- ✓ リアルタイム授業は、実際にご講師の先生方から意見を頂ける貴重な時間となった